RS 125 R
SM 125 R

オーナーズマニュアル

■本文書に含まれる内容は、SWMモーターサイクル社の知りうる限り、本出版の印刷許可日の時点で正確なものです。

■SWMモーターサイクル社は、仕様、装置、あるいは設計を、いつでも通告なしに、またいかなる義務を発生することもなく変更する権利を有しています。

■本マニュアル中のイラストは、例示目的のためだけに使用されたものであり、説明の詳細に正確に適合するものではない場合もあります。

■本マニュアルのいかなる部分についても、著作権所有者の書面による許可なく複製することは禁止されています。

RS 125 R
SM 125 R

特に記載のない限り、データおよび説明詳細はすべてのモデルが対象となります。

はじめに

SWMモーターサイクル・ファミリーにようこそ！
今回ご購入の新しいSWMモーターサイクルは、この分野で最高となるべく設計・製造されました。
本マニュアルの注意事項は、お客様のモーターサイクルの操作とケアをシンプルで分かりやすくするためのガイドとして作成されたものです。
モーターサイクルの性能とモーターサイクルに乗る楽しさを最大限にするために、確実に注意事項に従ってください。
オーナーズ・マニュアルには、オーナー様側でのケアとメンテナンスに関する注意事項が含まれています。
主要な修理あるいはメンテナンス作業は、熟練メカニックによる実施と特別な工具および装置の使用が必要となります。
お客様のSWM販売店では、このような価値あるサービスを適切に行うために必要な設備、経験、純正部品が備えられています。
この「オーナーズ・マニュアル」は、モーターサイクルの重要部分を構成しています。
したがって、他のユーザーに売却する際にも、このマニュアルをモーターサイクルに備えておかなければなりません。
このモーターサイクルには最新のシステム・技術を使用して設計された部品を搭載しており、そのパフォーマンスはレースで実証済みです。レース用モーターサイクルにおいては、よりよいパフォーマンスを常に追及する目的で、レースを終える度にあらゆるディテールを検証します。
このモーターサイクルは、最新のシステム・技術を使用して設計・生産された部品が取付けられています。
このモーターサイクルの操作にトラブルが無いことを確実にするため、付録Aに含まれるメンテナンス・点検表に従ってください。

重要なお知らせ

・RS125 RならびにSM125 Rの各機種は、道路交通法上で認められたモーターサイクルであり、その保証は機能的欠陥のみでは適用されず、法定の保証の対象となるのは、標準構成が維持され、かつ、付録Aの表に提示されたメンテナンス表が順守されている場合に限ります。

・レースで使用されたモーターサイクルすべて、およびこれに使用された部品は保証の対象外です。

重要

モーターサイクルの「機能性保証」を維持するため、お客様は、正規SWM販売店でのメンテナンスならびに点検を実施することによって、オーナーズマニュアルに示されたメンテナンスプログラムに従わなければなりません。
メンテナンススケジュールを順守するために必要な部品交換ならびに作業費用は、お客様の負担となります。

※モーターサイクルがレンタルされている場合、本保証は無効です。

重要なお知らせ

このマニュアルを注意深く読み、また、次の言葉の後にくる内容には特に注意してください。

警告＊

指示に従わない場合、重傷や死亡のおそれがあることを示します。

注意＊

指示に従わない場合、ケガやモーターサイクルの損傷のおそれがあることを示します。

おしらせ

役に立つ情報が記載されています。

部品交換

部品交換が必要な場合、SWM純正部品のみを使用してください。

警告＊

クラッシュ発生の後は、モーターサイクルを注意深く点検してください。スロットル、ブレーキ、クラッチ、その他すべてのシステムに損傷がないことを確認してください。損傷のあるモーターサイクルに乗った場合、重大な事故につながる可能性があります。

警告＊

適切な保護衣を着用していない場合、絶対にモーターサイクルを始動または操作しようとしないでください。必ず、モーターサイクル用のヘルメット、ブーツ、グローブ、ゴーグル、その他適切な保護衣を着用してください。

子供に関する注意事項

警告＊

- ぶつかったり傷つけられたりしそうにない場所にモーターサイクルを停めてください。
  わずかな衝突あるいは何気ない衝突であっても、モーターサイクルが転倒する可能性があり、人や子供に重大な危害を与える危険性があります。
- モーターサイクルの転倒を防止するため、軟らかい地面や平らではない地面、太陽の強い熱を受けたアスファルトの上にモーターサイクルを絶対に停めないでください。
- エンジンと排気管は乗車中に非常に高温になります。重度のやけどを防止するため、これらの部分に人や子供が簡単に接触できない場所にモーターサイクルを停めるようにしてください。

おしらせ

モーターサイクルの「左」「右」は、前方を向いた人の視点からの方向を示しています。

Z　：歯車数
A　：オーストリア
AUS：オーストラリア
B　：ベルギー
BR　：ブラジル
CDN：カナダ
CH　：スイス
D　：ドイツ
E　：スペイン
F　：フランス
FIN　：フィンランド
GB　：英国
I　：イタリア
J　：日本
USA：アメリカ合衆国

特段の定めがない限り、すべてのデータおよび指示事項は、すべての国に該当します。

目次

はじめに……2
重要なお知らせ……3
重要なお知らせ……3
部品交換……4
子供に関する注意事項……4
表示データ……8
車両識別番号（V.I.N.）……8
モーター識別番号……8
コントロールの位置……9
キー……9
テクニカルデータ……10
潤滑油、用品一覧……13
コントロール……14
燃料タップ（燃料コック）……14
燃料……14
サイドスタンド……15
デジタル計器、警告灯類……16
スロットルコントロール……20
フロントブレーキコントロール……20
イグニッションスイッチ……20
ステアリングロック……21
右側ハンドルバースイッチ……21
左側ハンドルバースイッチ……21
クラッチコントロール……22
複合ブレーキコントロール……22
ギヤシフトコントロール……23
運転……24
乗車前の確認……24
ならし運転に関する注意事項……24
トラブルシューティング……25
運転者ならびに同乗者が乗車／降車する……26
バックミラーを調整する……28
エンジンを始動する……28
モーターサイクルとエンジンを止める……30
モーターサイクルを緊急停止する……30
オイルレベルを確認する……31
オイルを交換する……32
オイルフィルターを交換する……33
冷却液レベルを確認する……34
スロットルコントロールケーブルを調整する……35
クラッチコントロールレバーを調整する……36
スパークプラグを確認する……36
サドルを取り外す……38
右側パネルを取り外す……38
エアフィルターの確認、清掃および／または交換を行う……39
ボルテージレギュレーター……40
複合ブレーキペダルの位置を調整する……40
複合ブレーキの遊びを調整する……41

目次

フロントブレーキ液のレベルを確認する……41
リアブレーキ液のレベルを確認する……42
フォークからエアを抜く……43
サスペンションを調整する……43
サスペンションスプリングプリロードを調整する……44
チェーンを調整する……44
クイック調整……45
チェーン／フロントスプロケット／リアスプロケットの
摩耗を確認する……46
チェーンの潤滑を行う……47
フロントホイールを外す……48
フロントホイールを組み付ける……48
リアホイールを外す……49
タイヤ……50
ブレーキ……50
ブレーキパッドを取り外す……51
パッドの磨耗……52
パッドを清掃する……52
パッドを取り付ける……52
ブレーキディスクの磨耗……52
ディスクを清掃する……53
エキゾーストマフラー……53
電気部品の位置……54
ケーブルのカラーコード……57
配線図中主要構成部品……57
バッテリー……60
バッテリー充電器……60
ヘッドランプの電球を交換する……61
テールライト……63
ナンバープレートライトの電球を交換する……63
ヘッドライトを調整する……64
備付……65
付録……66
長期間使用しない場合……66
洗車……67
納車前点検……68
索引……69
定期点検表……73

表示データ

エンジンの識別番号がクランクケースの写真の場所に刻印されています。車両のシリアル番号あるいは車両識別番号は、ステアリングヘッドチューブに刻印されています。

部品の注文の際、お客様のモーターサイクルに関するより詳しい情報のお問い合せの際には、必ずこれらの**フレームに刻印された番号**をお知らせください。また、その番号をこのマニュアルにメモしておいてください。

シャーシ番号
RS 125R
ZN0B201AAHV000000
(●) (▲) (◆)

SM 125R
ZN0B201ABHV000000
(●) (▲) (◆)

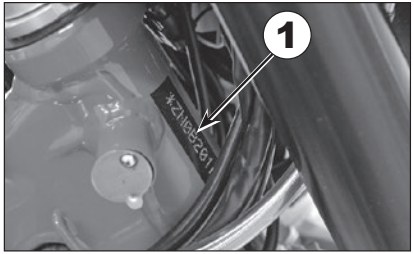
車両識別番号（V.I.N.）

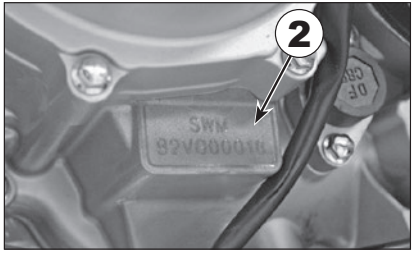
17ケタのシリアル番号（1）あるいは車両識別番号で、ステアリングチューブ（右側）に刻印されています。

（●）＝車種名
（▲）＝モデルイヤー（2016）
（◆）＝連続番号

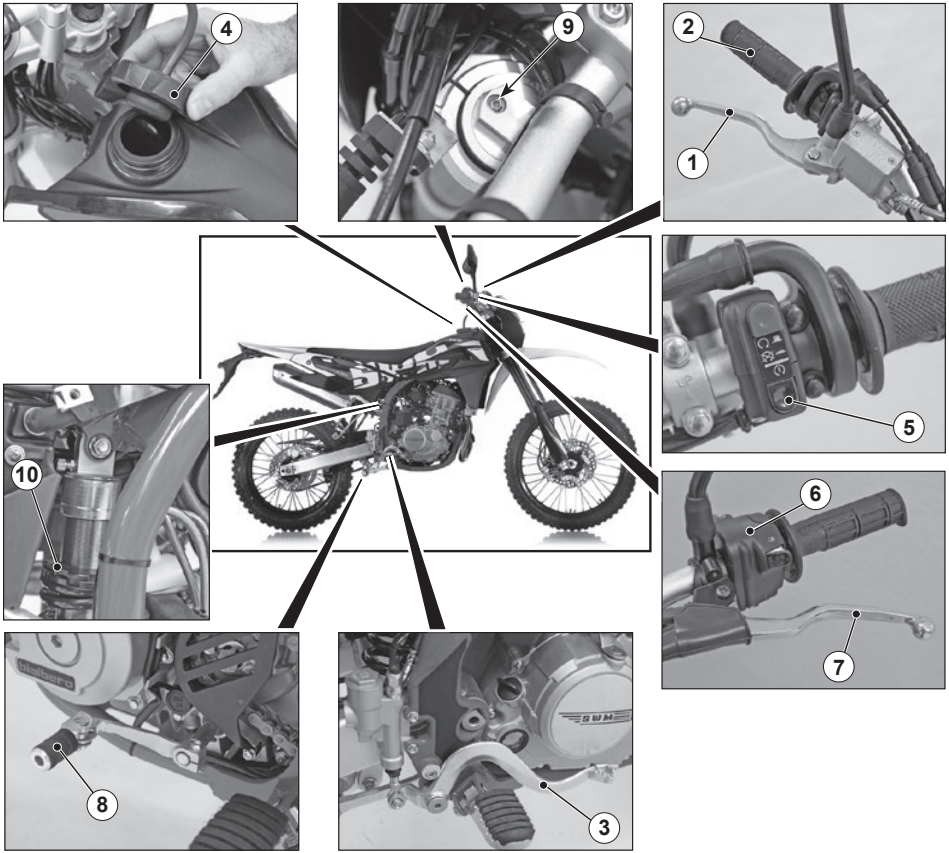
モーター識別番号

このシリアル番号（2）はモーターの左下にあります。





1. シャーシのシリアル番号
2. エンジンのシリアル番号



コントロールの位置

1) フロントブレーキコントロールレバー
2) スロットルツイストグリップ
3) 複合ブレーキコントロールペダル（フロント・リア）
4) 燃料タンクキャップ
5) 右側スイッチ（エンジンスターター）
6) 左側スイッチ
7) クラッチコントロールレバー
8) ギヤシフトコントロールペダル
9) フロントフォークのエア抜きスクリュー
10) リアサスペンションプリロードアジャスター

キー

このモーターサイクルには以下に使用するキーが2本（1本はスペア）付属しています。

a)イグニッションスイッチ
b)ステアリングロック

テクニカルデータ

エンジン

タイプ …… 単気筒、4ストローク、空冷
冷却液、電気ファン付ウォーターラジエーター …… n°2
ボア …… 58mm
ストローク …… 47mm
排気量(440) …… 445.3cm³
排気量(400) …… 193.3cm³
圧縮比 …… 12.8:1
始動 …… 電気式

タイミングシステム

タイプ …… ダブルオーバーヘッドカムシャフト;4バルブ
吸気 …… 0.05÷0.10mm
排気 …… 0.15÷0.20mm

潤滑

タイプ … ローブポンプ、カートリッジフィルター、オイルラジエーターを備えたドライサンプ式

イグニッション

タイプ …… 電子式、誘導放電、前進調製可(デジタル制御)
スパークプラグのタイプ …… NGK CR 8E
スパークプラグギャップ …… 0.79mm

燃料システム

タイプ …… 電子燃料噴射供給
スロットルボディ …… 径32.0mm

一次減速

ドライブピニオンギヤ …… Z 20 - Z 67
減速比: …… 3.35

クラッチ

タイプ …… 湿式多板式
コンダクティングディスク数 …… 5
コンダクテッドディスク数 …… 4

トランスミッション

タイプ …… コンスタントメッシュギヤタイプ
ギヤ数 …… 6

減速比:

1速ギヤ …… 2.833(z 34/12)
2速ギヤ …… 2.066(z 31/15)
3速ギヤ …… 1.555(z 28/18)
4速ギヤ …… 1.238(z 26/21)
5速ギヤ …… 1.045(z 23/22)
6速ギヤ …… 0.916(z 22/24)

二次減速

ギヤボックスアウトレットフロントスプロケット－リアスプロケット
RS …… Z 14 - Z 58
SM …… Z 14 - Z 54

減速比:

RS …… 4.142
SM …… 3.857

ドライブチェーン

ブランドとタイプ …… 「REGINA」126RSHB - 12.7

フレーム

タイプ … 高力スチールチューブ製シングルビーム、ダブルクレードル型
スチール製リヤフレーム

フロントサスペンション

タイプ …… 倒立型油圧フロントフォーク、伸縮可能軸付き
支柱パイプ径：40.9mm
シャフトストローク：249.9mm

リアサスペンション

タイプ …… プログレッシブ「ソフトダンパー」
シングル油圧サスペンション付き
ホイールストローク …… 249.9mm

フロントブレーキ

(RS)

タイプ …… 固定式ディスク、油圧式コントロールおよび
フローティングキャリパー付き（径259.8mm）

(SM)

タイプ …… 固定式ディスク、油圧式コントロールおよび
フローティングキャリパー付き（径299.9mm）

リアブレーキ

タイプ …… フローティングディスク、油圧式コントロールおよび
フローティングキャリパー付き

リム

(RS)

フロント …… 軽合金製、1.6インチ×21インチ
リア …… 軽合金製、2.15インチ×18インチ

(SM)

フロント …… 軽合金製、2.75インチ×17インチ
リア …… 軽合金製、4.00インチ×17インチ

タイヤ

(RS)

タイプ …… KENDA
フロント …… 80/90 - 21インチ K774F
リア …… 110/80-18インチ K774
冷間時空気圧/フロント
…… 運転者のみ：1.2kg/㎠
…… 運転者と同乗者：1.5kg/㎠
冷間時空気圧/リア
…… 運転者のみ：1.5kg/㎠
…… 運転者と同乗者：1.8kg/㎠

(SM)

タイプ …… KENDA
フロント …… 110/70 - 17インチ
リア …… 140/70-17インチ
冷間時空気圧/フロント
…… 運転者のみ：1.8kg/㎠
…… 運転者と同乗者：2.0kg/㎠
冷間時空気圧/リア
…… 運転者のみ：2.0kg/㎠
…… 運転者と同乗者：2.2kg/㎠

寸法・重量・能力

(RS)

ホイールベース …… 1465mm
全長…… 2236mm
全幅…… 820mm
全高…… 1230mm
サドル高さ …… 950mm
最低地上クリアランス …… 320mm
トレイル …… 111mm
乾燥重量…… 117kg

(SM)

ホイールベース …… 1500mm
全長…… 2106mm
全幅…… 820mm
全高…… 1165mm
サドル高さ …… 914mm
最低地上クリアランス …… 275mm
トレイル …… 83mm
乾燥重量…… 120kg

燃料タンク容量 …… 7.2L
冷却液能力…… 1.1L÷1.3L
トランスミッションオイル
オイルとオイルフィルター
交換…… 1.3L
オイル交換 …… 1.2L
ホモロゲーション …… EURO 4

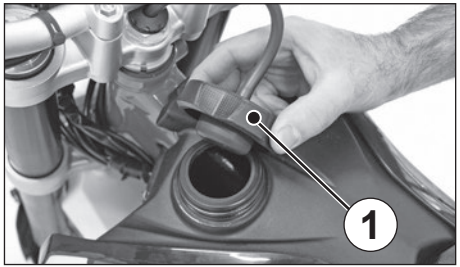
潤滑油、用品一覧

エンジン、ギヤボックス、一次減速潤滑オイル	MOTUL 5100 TECHNOSYNTHESE 10W50
エンジン冷却液	MOTUL MOTOCOOL EXPERT
ブレーキフルード	MOTUL DOT 3&4
グリース潤滑	MOTUL GREASE 100
ドライブチェーン潤滑剤	MOTUL CHAIN LUBE
フロントフォークオイル	MOTUL FORK OIL LIGHT 5W
リアサスペンションオイル	MOTUL FORK OIL LIGHT 5W
電気接触保護剤	MOTUL EZ LUBE

コントロール

燃料タップ（燃料コック）

燃料噴射式エンジン搭載の車両には燃料ポンプが燃料タンクに内蔵されているため、燃料供給システム上にはタップ（ON - OFF - RES）が取り付けられていません。
リザーブの警告はデジタル計器上の該当する警告灯で表示されます（「デジタル計器、警告灯」参照）。



燃料

推奨する燃料：プレミアムグレードの無鉛ガソリン（R.O.N.98）

おしらせ

エンジンが「ノック」している場合、燃料のブランドを変更してください。あるいは、オクタン価がもっと高い燃料を使用してください。

警告＊

エンジンがノッキングを起こしている場合、絶対に運転を続けないでください。エンジンが損傷し、焼き付きが発生するおそれがあります。

警告＊

燃料は極めて可燃性が高く、特定の条件では爆発する可能性があります。バイク給油または燃料保管場所の区域内では必ずエンジンを停止し、禁煙とし、火気や火花を発生させないでください。燃料補給後はタンクキャップ（1）をしっかりと閉めてください。

サイドスタンド

サイドスタンド(1)は、全てのモデルに装着されています。

警告＊

サイドスタンドは、モーターサイクルの重量のみを支えるように設計されています。サイドスタンドでモーターサイクルを支えている状態でまたがる等、車両重量以外にサイドスタンドに荷重をかけないようにご注意ください。サイドスタンドに構造上の不具合が発生し、結果として人体への負傷やモーターサイクルの損傷を引き起こす場合があります。

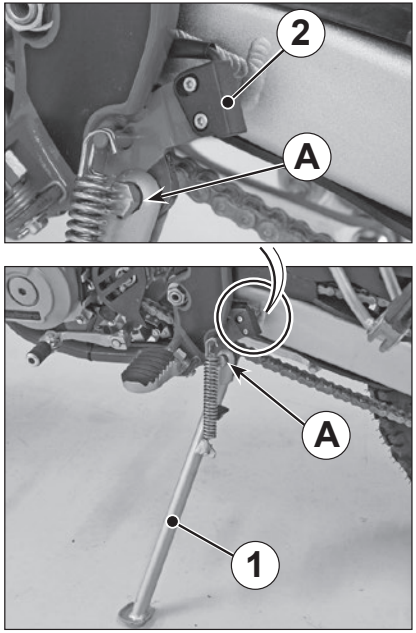
警告＊

必ず車両から降りてからモーターサイクルのサイドスタンドをセットしてください。モーターサイクルがスタンドに支えられた状態から地面に直立した姿勢に起こしてから、運転者が下がったスタンドを左足で格納位置に上げます。

警告＊

モーターサイクルには安全センサー(2)が搭載されており、スタンドが下がった状態でギアがニュートラルになると始動できます。スタンドが下がっている状態でギアが入っていると、エンジンが停止します。

サイドスタンドは定期的に点検してください。(「定期メンテナンス表」参照)
スプリングに損傷がなく、サイドスタンドが自由に動くか確認してください。
サイドスタンドの動きが悪い場合は、締付けピボット(A)へ潤滑を行ってください。



デジタル計器、警告灯類

モーターサイクルにはデジタル計器が搭載されており、ハイビーム、ロービーム（表示灯付き）、ウィンカー、ニュートラルギヤ、燃料リザーブの5つの警告灯がついています。

1– 青警告灯「ハイビーム」
2– 橙警告灯「エンジン不具合」
3– 緑警告灯「ウィンカー」
4– 緑警告灯「ニュートラルギヤ」
5– 橙警告灯「燃料リザーブ」

おしらせ

– キーをONに回すと、計器が機能テストを開始します。テストが完了すると最後に使った機能が計器に表示されます。
– エンジンが停止しているとき、計器にはどの機能も表示されません。
– 計器の機能を選択してリセットするには、スクロールボタン（A）を使用します。
– 選択できる機能と順序は以下のとおりです。

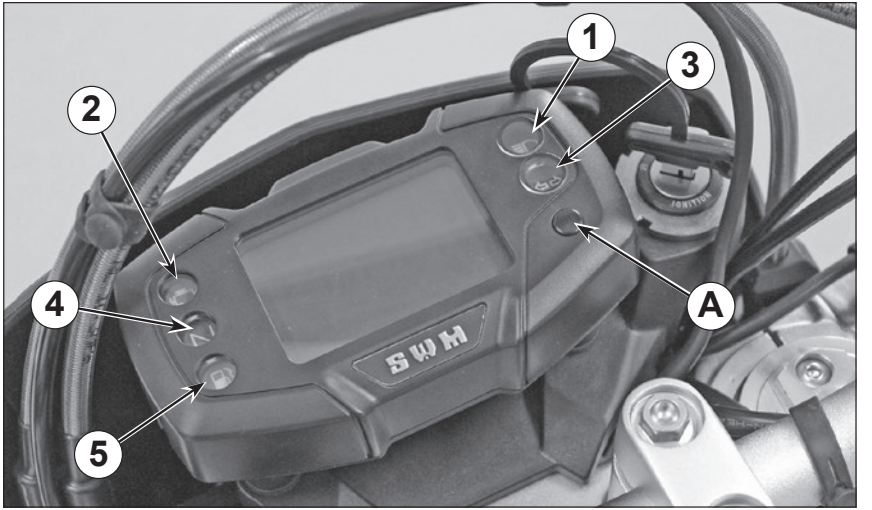
1– SPEED／ODO
2– SPEED／H
3– SPEED/CLOCK
4– SPEED/TRIP1
5– SPEED/STP1
6– SPEED/AVS1
7– SPEED/SPEED MAX
8– SPEED/TRIP2
9– TRP2/CLOCK
10– SPEED/RPM（エンジン回転数rpmの数値）

おしらせ

縦方向のバーによるRPM表示機能は常にアクティブです。

重要

使用中に「エンジン不具合」警告灯（2）が点灯した場合はエンジンに不具合があることを示しています。できるだけ早急にSWM販売店にご連絡ください。



1.SPEED（kmhまたはmph）/ ODO / RPM（図1）

- SPEED：299kmhまたは299mph
- ODO：オドメーター ― 最大値：99999km
- RPM：エンジン回転数を縦方向のバーで表示

距離表示をキロとマイルの間で変換する場合は以下の手順で行います。

1) 図1の表示にします。イグニッションキーをOFFポジションにし、スクロール(A)を押します。
2) スクロール(A)を3秒長押ししながらイグニッションキーをONポジションにします。

表示が変わったことを確認できるよう、「SET」とマイル/mphもしくはキロ/kmhの部分が3秒間アクティブになります。その後、図1の標準機能表示になります。

おしらせ

前述の操作後、ODOの設定が変換され、その他のデータすべてもリセットされます（Hカウンターは変わりありません）。

2.SPEED / H / RPM（図2）

- SPEED：299kmhまたは299mph
- H：エンジンの運転時間を表示（データは10分ごとに恒久的メモリへ保存されます）。最大値：9999：59
- RPM：エンジン回転数。縦方向のバーで表示。

3.SPEED / CLOCK / RPM（図3）

- SPEED：299kmhまたは299mph
- CLOCK：時計は0：00～23：59：59表示（バッテリーを取り外すとデータは失われます）。

時計を設定するにはスクロールボタン(A)を3秒以上長押しして「時」表示値を上昇できます。ボタンから手を離してから3秒すると「分」表示値を上昇できます。

- RPM：エンジン回転数。縦方向のバーで表示。

4.SPEED / TRIP1 / RPM（図4）

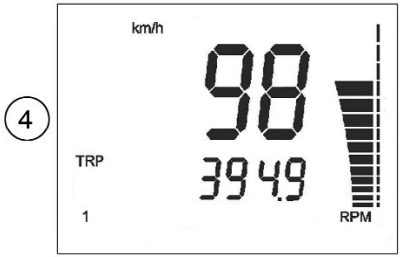
- SPEED：299kmhまたは299mph
- TRIP1：距離 - 最大値：999.9km（バッテリーを取り外すとデータは失われます）。

STP1をゼロに設定するとTRIP1とAVS1の機能もゼロに設定されます。

TRIP1機能はSTP1機能（＊）と一緒にONになります。

- RPM：エンジン回転数。縦方向のバーで表示。

（＊）：図5参照



5.SPEED / STP1 / RPM（図5）

- SPEED：299kmhまたは299mph
- STP1：マイル/キロ変換時間
- 表示は0：00～23：59：59（バッテリーを取り外すとデータは失われます）。

STP1機能をアクティブにするにはスクロールボタン（A）を3秒以上長押します。

- スクロール（A）を3秒以上長押しするとカウンターが開始
- スクロール（A）を1回だけ押すとカウンターが停止
- スクロール（A）を1回だけ押すとカウンターがリセット　など。

おしらせ

STP1データ+TRIP1データ=AVS1（＊）

- RPM：エンジン回転数。縦方向のバーで表示。

（＊）：図6参照

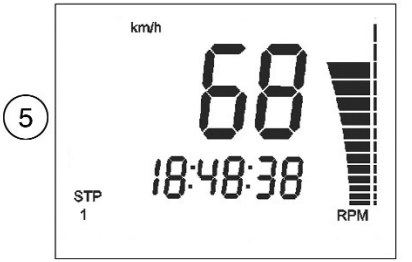
6.SPEED / AVS1 / RPM（図6）

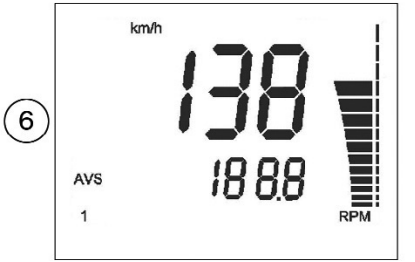
- SPEED：299kmhまたは299mph
- AVS1：車両の平均走行速度、距離データ（TRIP1）、走行時間（STP1）を表示（バッテリーを取り外すとデータは失われます）。

おしらせ

STP1をリセットするとTRIP1とAVS1データもリセットされます。

- RPM：エンジン回転数。縦方向のバーで表示。



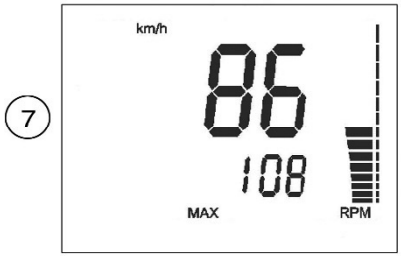


7.SPEED / VMAX / RPM（図7）

- SPEED：299kmhまたは299mph
- VMAX：車両が出した最高速度をkmhまたはmphで表示。

最大値：299kmhまたは299mph。VMAXをゼロに設定するにはスクロール（A）を3秒以上長押します。

- RPM：エンジン回転数。縦方向のバーで表示。



8.SPEED / TRIP2 / RPM（図8）

- SPEED：299kmhまたは299mph
- TRIP2：距離最大値：999.9キロ／マイル（バッテリーを取り外すとデータは失われます）

TRIP2をゼロに設定するにはスクロール（A）を3秒以上長押します。

- RPM：エンジン回転数。縦方向のバーで表示。

9.TRIP2 / CLOCK / RPM（図9）

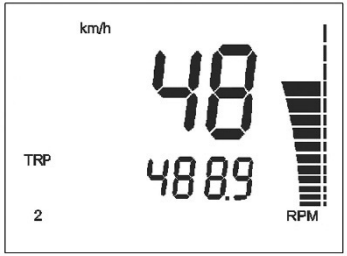
TRIP2：距離最大値：999.9キロ／マイル（バッテリーを取り外すとデータは失われます）

TRIP2をゼロに設定するにはスクロール（A）を3秒以上長押します。

CLOCK：時計は0:00～23:59:59表示（バッテリーを取り外すとデータは失われます）。

時計をリセットするにはスクロール（A）を3秒以上長押しすると「時」表示値を上昇できます。ボタンから手を離して3秒経つと、「分」表示値を上昇できます。

- RPM：エンジン回転数。縦方向のバーで表示。



10.SPEED / RPM（エンジン回転数rpmの数値）（図10）

- SPEED：299kmhまたは299mph
- RPM：エンジン回転数；縦のバー表示と数値表示の両方を表示。

スロットルコントロール

スロットルツイストグリップ（1）は、ハンドルバーの右手側にあります。スロットルコントロールの位置は2本の固定スクリューを緩めることで調節可能です。

注意＊

調節後は、絶対にネジ（B）を締め忘れないようにしてください。

フロントブレーキコントロール

ブレーキコントロールレバー（2）は、ハンドルバーの右側にあります。ブレーキ動作中にストップスイッチを使用すると、テールライト内のストップライトが点灯します。フロントブレーキコントロールの位置は、2本の固定スクリュー（B）を緩めることで調節可能です。

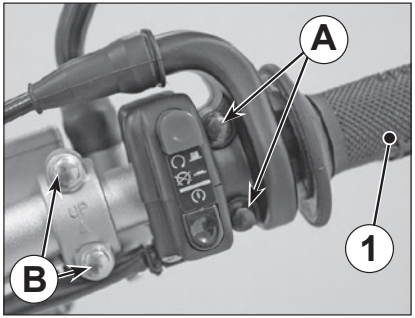
注意＊

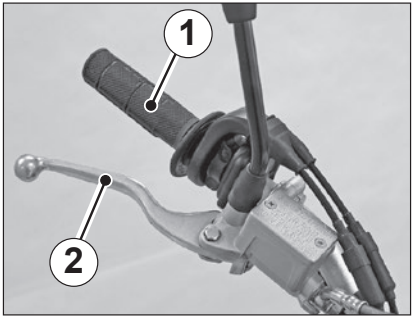
調節後は、絶対にネジ（B）を締め忘れないようにしてください。

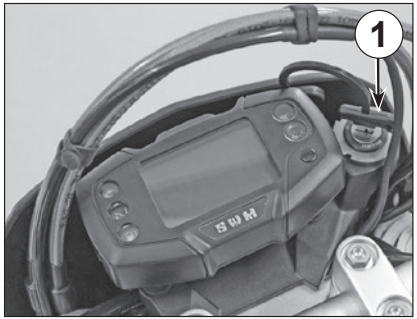
イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチには次の3つのポジションがあります。

- キー取り外しポジション「⊗」からキー（1）を時計回りに始動ポジション「⟳」に回します。するとパーキングランプとユーティリティがアクティブになり、エンジンを始動することができます。

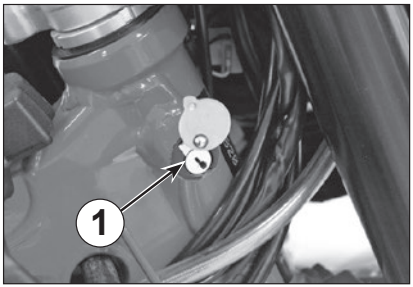






ステアリングロック

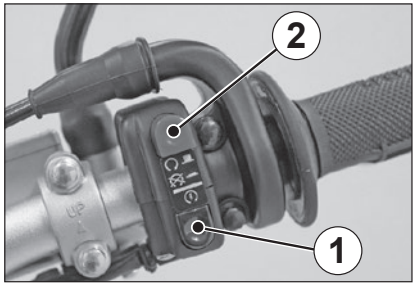
モーターサイクルのステアリングヘッドチューブの右側にステアリングロック(1)が搭載されています。ロックをするには以下の順で行ってください。
ハンドルバーを左に回し、キーをロックに挿入して左に回します。キーを中に向けて押します(必要であれば回します)。キーを時計回りに回しロックから取り外します。
ステアリングロックを解除する場合、上の手順を反対の順番で行ってください。



右側ハンドルバースイッチ

右側スイッチは次のコントロール機能があります。

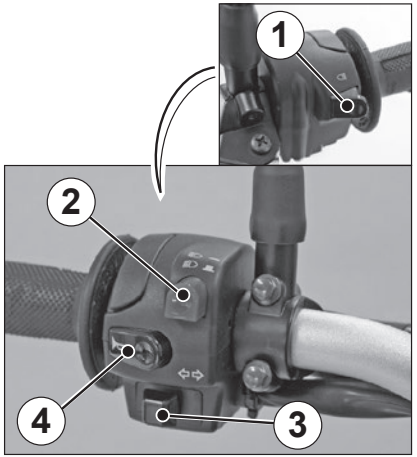
1) エンジンスタートボタン
2) エンジンキルスイッチ



左側ハンドルバースイッチ

左側スイッチは次のコントロール機能があります。

1) ハイビーム点滅
(自動キャンセル式)
2) ハイビーム
ロービーム
3) ⬅ 左折ウインカー
(自動キャンセル式)
➡ 右折ウインカー
(自動キャンセル式)
ウインカーを解除する場合、コントロールレバーが中央に戻った後でコントロールレバーを押します。
4) 警告ホーン

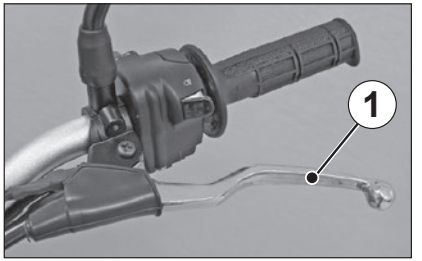


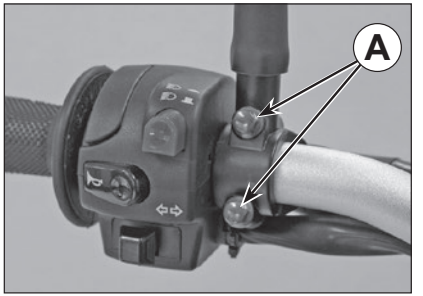
クラッチコントロール

クラッチコントロールレバー（1）は、プロテクター付きで、左側ハンドルバーにあります。クラッチコントロールレバーの位置は固定スクリュー（A）を緩めることで調節可能です。

注意＊

調節後は、絶対にネジを締め忘れないようにしてください。



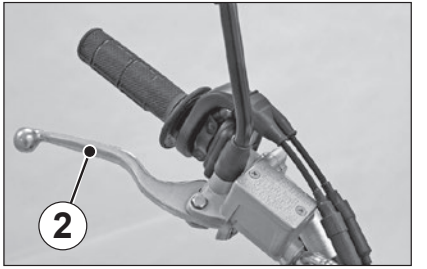


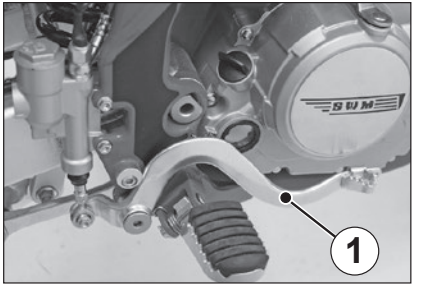
複合ブレーキコントロール

複合ブレーキコントロールペダル（1）はモーターサイクルの右側にあります。ブレーキ動作中にストップスイッチを使用すると、テールライトが点灯します。

おしらせ

レバー（2）を引くとフロントブレーキを使って停止します。ペダル（1）を踏むと複合ブレーキが作動し、システムがフロントブレーキとリアブレーキへの両方への負荷を自動的に分配して停止します。





ギヤシフトコントロール

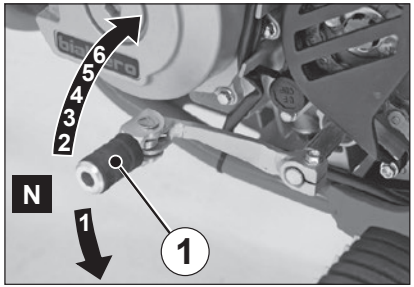
このレバー（1）は、エンジンの左手側にあります。運転者は、ギヤチェンジ後は毎回必ずこのレバーから足を離して、レバーを中央のポジションに戻さなければなりません。ニュートラルポジション（N）は、1速ギヤと2速ギヤの間です。
1速ギヤは、レバーを下の方に押すことで入ります。他のギヤは、レバーを順に上に動かすことで入ります。
ギヤシフトレバーの位置は、次の手順で調整可能です。
スクリューを緩め、取り外す→レバーを引き出す→レバーをシャフト上の新しい位置に組み付けます。
スクリューを締め付けて、作業完了です。

注意＊

クラッチを切ってスロットルを閉じていない場合は、絶対にギヤの切り替えを行わないでください。エンジンが過度な速度によって損傷するおそれがあります。

警告＊

次に低いギヤではエンジンが回転過剰になってしまう速度で走行している場合、絶対にシフトダウンを行わないでください。リアホイールがグリップを失う可能性があります。



運転

おしらせ

本モーターサイクルの操作について不明な場合は、モーターサイクルに乗る前に操作方法の部分を熟読頂きご使用ください。

乗車前の確認

毎回、モーターサイクルを使用する前に、以下の点検、確認を実施下さい。

- 燃料レベルとエンジンオイルレベルを確認してください。
- ブレーキ液レベルを確認してください。
- ハンドルバーを左右、中央に動かしてステアリングを確認してください。
- タイヤ空気圧を確認してください。
- チェーンのテンションを確認してください。
- スロットルツイストグリップを確認し、必要であれば調整してください。
- スロットルコントロールを確認し、必要であれば調整してください。
- イグニッションスイッチを のポジションに回し、計器ディスプレイの点灯を確認してください。また、ギヤボックスをニュートラルにした状態で、ニュートラル警告灯が点灯することを確認してください。
- ハイビームライトを点灯させ、関連する警告灯が点灯することを確認してください。
- 方向指示表示器を操作し、警告灯が点灯することを確認してください。
- リアストップライトが機能しているか確認してください。
- 始動後に、エンジン不具合警告灯 が点灯していないことを確認してください。

ならし運転に関する注意事項

使用された高品質な材料や組立の正確さと合わせて、排他的な設計が実施されているため、最初からより優れた快適な乗り心地が保証されています。ただし、最初の1500km（932.05マイル）の走行においては、下記に記載されたルールを厳守してください。なお、この規則に従わない場合、モーターサイクルの寿命ならびに性能が損なわれる場合がありますのでご注意ください。

- モーターサイクルを使用する前に、エンジンを低速運転で暖機します。
- クイックスタートを避け、低速ギヤの場合にエンジン回転を絶対に上げないでください。
- エンジンが温まるまでは低速で運転してください。
- 数回両方のブレーキをかけ、パッドとディスクを安定させてください。
- 長時間同じ速度を維持しないでください。
- 停止せずに長時間運転しないでください。
- ギヤボックスをニュートラルにした状態で下り坂を絶対に走行しないでください。必要な場合、ギヤを切り替えてエンジンブレーキを行い、ブレーキパッドの早期摩耗を防止してください。

トラブルシューティング

トラブルシューティングや必要な措置を確認するため、次の一覧表を使用してください。

エンジンが始動しない

- 始動の手順を正しく守っていない：「エンジンを始動する」の項に記載された指示を守ってください。
- スパークプラグの汚れ：掃除してください。
- スパークプラグがスパークしない：電極間の隙間を調整してください。
- スターターモーターの不具合：修理または交換してください。
- スタートボタンの不具合：スイッチを交換してください。
- サイドスタンドが下がり、ギヤが入っている：サイドスタンドを上げてください。

エンジンの始動に問題がある

- スパークプラグの汚れまたは摩耗：掃除あるいは交換してください。

エンジンは始動するが、不安定

- スパークプラグの汚れまたは摩耗：掃除あるいは交換してください。
- スパークプラグの電極間の隙間の不具合：調整してください。

スパークプラグがすぐに汚れる

- スパークプラグが不適切：交換してください。

エンジンのオーバーヒート

- ラジエターのエアの流れが妨げられている：掃除してください。
- 電気ファンの不具合：サーマルスイッチを交換してください。
- 冷却液の量が不十分：補給してください。

エンジンのパワー不足

- エアフィルターの汚れ：掃除してください。
- スパークプラグの電極間の隙間が大きすぎる：調整してください。
- バルブのクリアランスが不適切：調整してください。
- 圧縮が不十分：原因を確認してください。
- 燃料ポンプ保護フィルターまたはインジェクター保護フィルターの汚れ：フィルターの掃除または交換してください。

エンジンがノッキングする

- ピストンクラウン、または燃焼室内のカーボン堆積が過剰：掃除してください。
- スパークプラグの不具合または熱価の誤り：交換してください。

交流発電機の充電不良、または充電不足

- ボルテージレギュレーターのケーブル接続不良、あるいは短絡：正しく接続する、あるいは交換してください。
- 交流発電機コイルの不具合：交換してください。
- 交流発電機ローターの減磁：交換してください。
- ボルテージレギュレーターの不具合：交換してください。

バッテリーのオーバーヒート

- ボルテージレギュレーターの不具合：交換してください。

ギヤを切り替えにくい

- エンジンオイルの粘性度が高すぎる：推奨オイルと交換してください。

クラッチがスリップする

- スプリング負荷不足：交換してください。
- クラッチプレートの摩耗：交換してください。

ブレーキの不具合

- パッドの摩耗：交換してください。

運転者ならびに同乗者が乗車／降車する

一般注意事項

運転者ならびに同乗者の安全、ならびに人的損傷およびモーターサイクルの損傷防止に関する重要な情報について述べた下記の注意事項をよく読んでください。

モーターサイクルの乗車または降車は、必ず左側側から両手が自由な状態で、障害物がなく、スタンドを下げた状態で行わなければなりません。

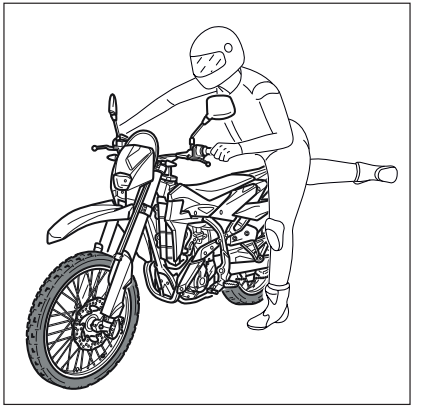
同乗者の乗車および降車時は、運転者が必ず先にモーターサイクルに乗る、また、必ず後でモーターサイクルから降りるようにして、モーターサイクルの安定性を制御しなければなりません。

車両から降りる場合にジャンプしたり足を広げたりせず、関連する項に記された注意事項を必ず順守して降車しなければなりません。

運転者の乗車

サイドスタンドにモーターサイクルが支えられた状態で、次のことを行います。

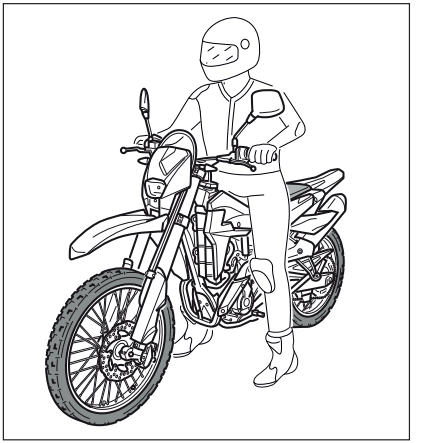
- 左側から、両手で正しくハンドルバーを握り、右足を伸ばしてサドルをまたぎます。
- モーターサイクルに座り、地面に両足を置く。サイドスタンドに自分の全体重をかけずに、モーターサイクルのバランスをとります。



注意＊

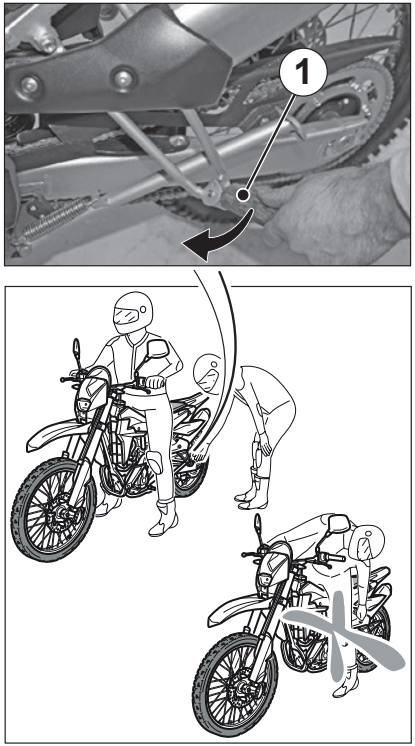
地面に両足を置くことができない場合、左足を浮かせて右足を地面に付けることを推奨します。

- 関連する項に記された通りにモーターサイクルを始動してください。
- 左足を使って、スタンドを完全に格納します。



同乗者の乗車

エンジンを始動せずに、関連する項に記された通りに先に運転者が乗車します。

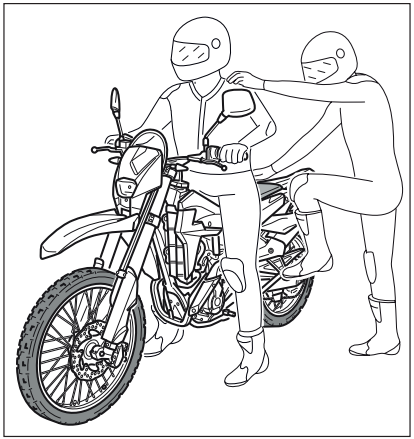


– 同乗者は、同乗者用フットレスト（1）を下げてください。

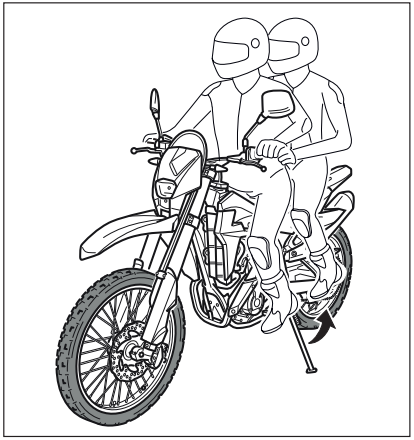
注意＊

乗車ポジションでは、モーターサイクルのバランスが悪くなる場合があるため、運転者は後部の同乗者用フットレストを引き出すあるいは引き出そうとしないでください。

運転者の肩に左側を置き、左足をフットレストに置いて、次に右足を上げてモーターサイクルに乗車し、モーターサイクルと運転者のバランスを崩さないように注意して動いてください。



– 運転者につかまります。
– 左足を使って、スタンドを完全に収納します。
– 関連する項に示された通りにモーターサイクルを始動してください。



モーターサイクルから降車する

- モーターサイクルを停めてエンジンのスイッチを切ります。

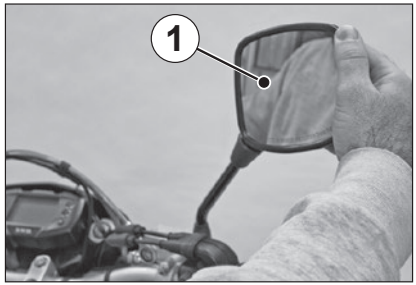
注意＊

モーターサイクルを駐車する場所が安定して平坦な地面であることを確認してください。

- 地面に両足を置きます。
- 関連する項に記された通りにモーターサイクルのスイッチを切ります。
- 左足を使って、スタンドを完全に出します。
- 同乗者に左側のフットレストに足を置かせ、右足を上げてモーターサイクルの左側から先に降車させます。
- スタンドにモーターサイクルが支持されるまで左にモーターサイクルを傾けてください。
- ハンドルバーをしっかりと握り、右足を上げて左側に降車します。

バックミラーを調整する

関連する項に記された通りにモーターサイクルに座ります。
座った状態で後方の道路がはっきりと見えるように両方のミラー（1）を調整します。



エンジンを始動する

（写真は次のページ）

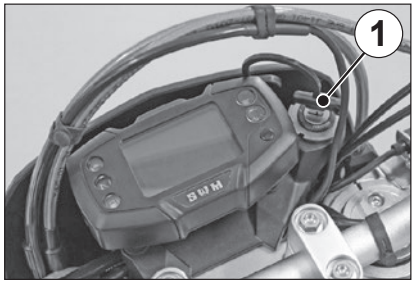
1) イグニッションキー（1）を🔑のポジションにする（キーを🔑の方向に回すと、燃料ポンプによって給油システムが加圧されるため、作動音が聞こえます）。
2) クラッチレバー（2）を引きます。
3) ギヤシフトペダル（3）をニュートラルポジションに切り替えます。
4) ボタン（4）が解除位置（押されていない状態）にあることを確認した後でスタートボタン（5）を押します。

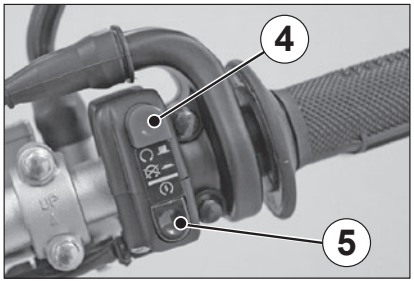
おしらせ

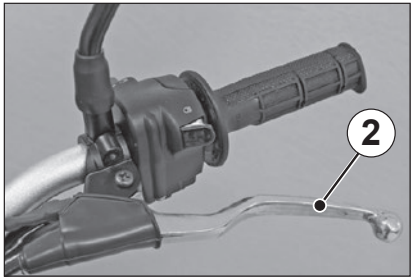
エンジンが温まっている状態でエンジンを始動するときにはスターターを使用しないでください。
冷えた状態のエンジンを始動した直後は、回転数を上げずに、オイルが適度に温められて循環していることを確認してください。

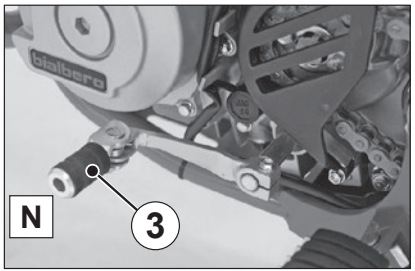
おしらせ

クラッチレバーサポートに安全スイッチが設置されています。このスイッチは、ギヤボックスがアイドルの状態、あるいは、ギヤが入ってクラッチレバーが引かれた状態に限り、エンジンを始動させることができます。スタンドを下げた状態では、ギヤがニュートラルの時のみモーターサイクルを始動することができます。









低気温時に冷間始動する際の重要なお知らせ

アクセル開放時にエンジンが通常どおりの反応をするようになるまでは、アイドル速度で短時間ウォームアップすることを推奨します。こうすると潤滑油を必要とする部分のすべての面にオイルが行き渡り、冷却液が適正なエンジン動作に必要な温度になります。エンジンのオーバーヒートを避けてください。

重要

冷間始動した後は、絶対にエンジンをふかさないでください。

警告＊

排気ガスには毒性のある一酸化炭素が含まれています。締め切った車庫内や密閉された場所では絶対にエンジンを運転させないでください。

モーターサイクルとエンジンを止める（写真は次のページ）

- モーターサイクルの減速を助けるためにスロットル（1）を完全に閉じます。
- シフトダウンしながらブレーキをかけます（素早く減速したい場合、ためらわずにしっかりとブレーキペダルやレバーを操作してください）。

おしらせ

レバー（2）を引くとフロントブレーキで減速します。ペダル（3）を踏むと複合ブレーキを使用するため、システムはフロントブレーキとリアブレーキの両方を作動します。

- 停止したら、クラッチレバー（4）を引き、ギヤシフトペダル（5）をニュートラルに切り替えます。
- イグニッションキー（6）を「⊗」のポジションに回します（キーを取り外す位置）。

モーターサイクルを緊急停止する（写真は次のページ）

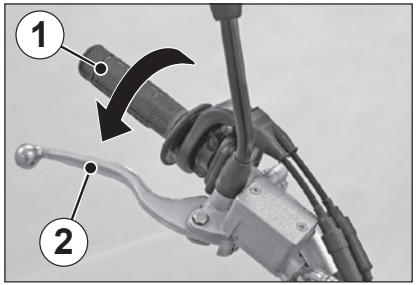
- 赤色のボタン（7）を操作してモーターを停止します。停止後はボタンを解除位置（押していない状態）に戻します。

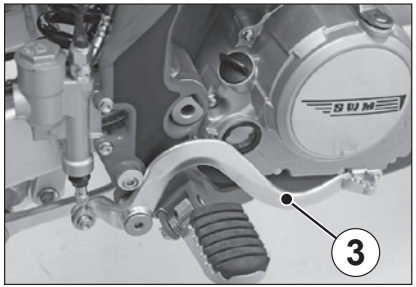
警告＊

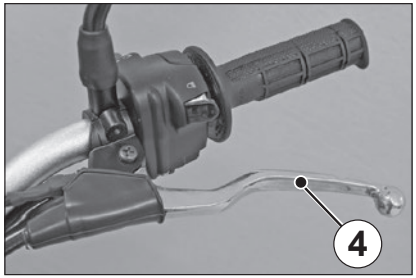
時にフロントブレーキだけ使用するのがよい場合と複合ブレーキを使用したほうが良い場合があります。特に路面が滑りやすい状況では、充分に注意してフロントブレーキを使用してください。不適切なブレーキの使用は、重大なクラッシュにつながる可能性があります。

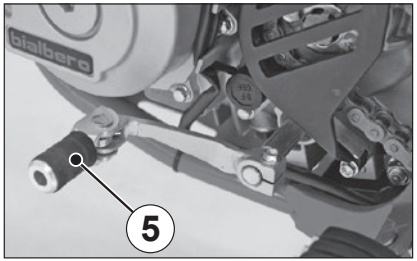
警告＊

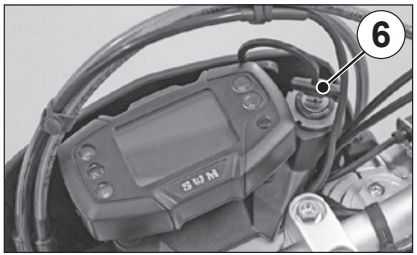
スロットルが開放状態のままになった、あるいはエンジンが制御不可能になるようなその他の不良が発生した場合、直ちにエンジンキルスイッチ（7）を押してください。エンジンキルスイッチが押されている間は、ブレーキとステアリングを通常通りに使用してモーターサイクルを制御してください。

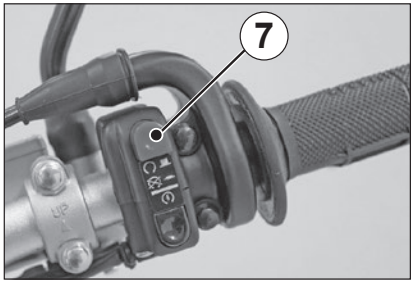












オイルレベルを確認する

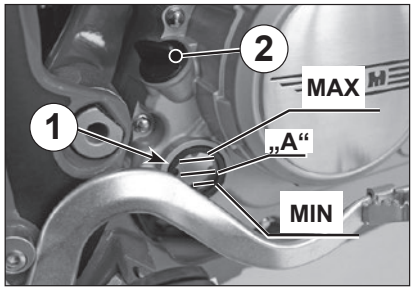
平坦な地面上にモーターサイクルを垂直姿勢にし、右側クランクケースの点検窓(1)でオイルレベルを確認します。レベル計「A」のMINとMAXのメモリの間にオイルレベルがあることを確認してください。補給するにはキャップ(2)をはずします。

おしらせ

エンジンが暖まっている状態でこの作業を行ってください。

警告＊

熱くなったエンジンオイルに触れないように注意してください。



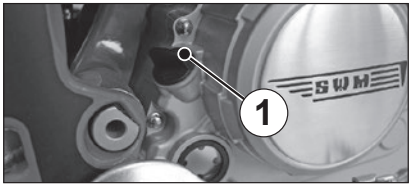
オイルを交換する

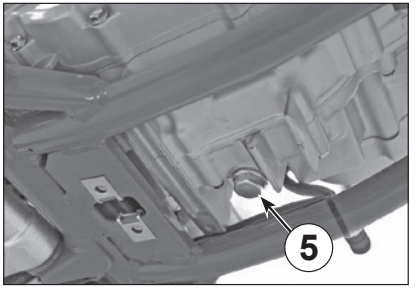
警告＊

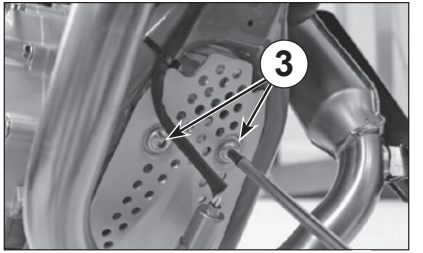
高温のエンジンオイルに触れないように注意してください。

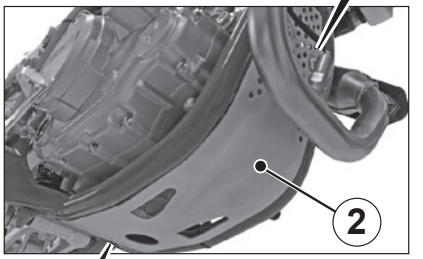
エンジンが暖まった状態でオイルを抜きます。以下の手順で行います。

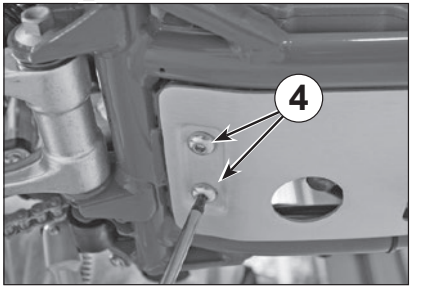
- オイルキャップ（1）を取り外します。
- スクリュー（3）と（4）を緩めて下プロテクター（2）を取り外します。
- エンジンブロックの下にオイルの受皿をおきます。
- オイルのドレンキャップ（5）を取り外します。
- 古いオイルを完全に抜いてから、キャップのマグネットをきれいにします。
- ドレンキャップ（5）とモータープロテクター（2）を再度組み付け、適量のオイルを注入します。











オイルフィルターを交換する

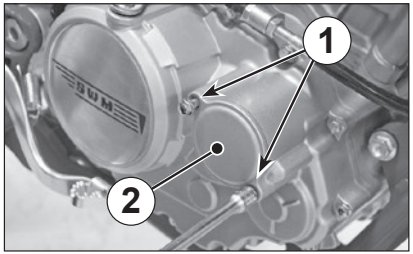
上記の手順で古いオイルを抜いた後、以下の手順を行います。

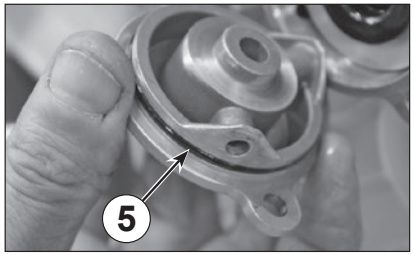
- 2本のスクリュー(1)を緩め、カバー(2)を少しづつ回しながら取り外します。
- オイルフィルター(3)を取り外します。
- バネ(4)がフィルターハウジングの底の溝にはまっていることを確認します。

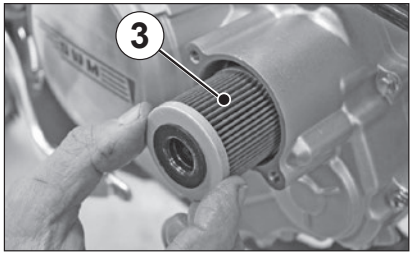
おしらせ

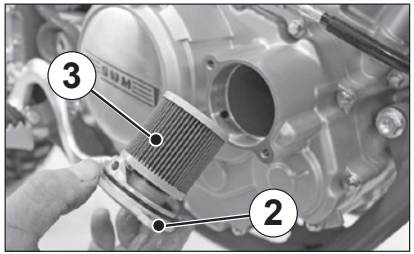
溝にバネ(4)があることを確認したら、円錐型のバネの大きな径の側を溝にはめ込み、動かないようにします。

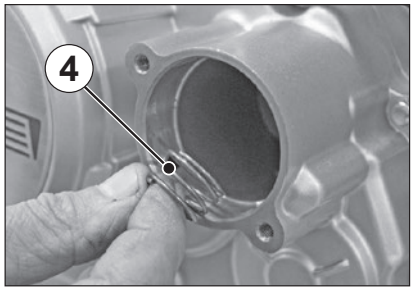
- ORシール(5)の状態を確認し、磨耗している場合は交換します。
- フィルター(3)を交換し、カバー(2)に組み付けます。
- フィルターが正しくハウジングに入った状態でカバー(2)を再度組み付け、スクリュー(1)を締めます。











冷却液レベルを確認する

エンジンが冷えた状態で右側ラジエターのレベル(1)を確認します(モーターサイクルを完全に立てた状態にします)。冷却液は部品類より10mm高い状態で、その高さはリアサスペンションの前にあるリカバリータンク(2)の底から2－3cm以上あってはなりません。

ラジエターキャップ(3)には2箇所ロック位置があり、最初のロック位置は冷却システムの放圧位置です。

注意＊

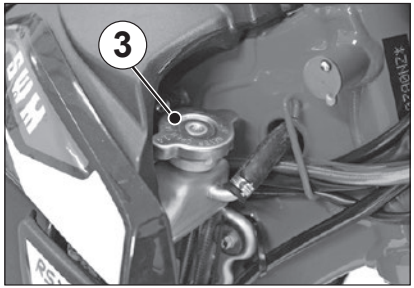
エンジンが高温の時にはラジエターキャップ(3)を取り外さないでください。冷却液が噴き出て火傷の恐れがあります。

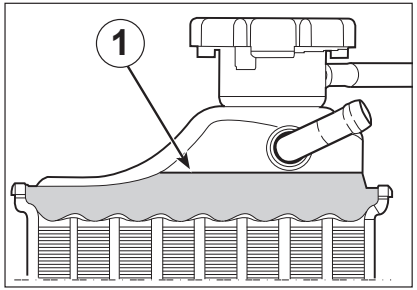
注意＊

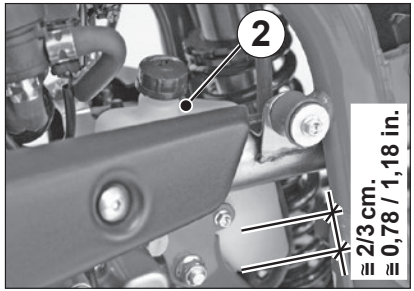
スタートスイッチがOFFのポジションにあっても冷却ファン(4)の運転が可能であるため、ファンの羽根部分からは常に安全な距離を保ってください。

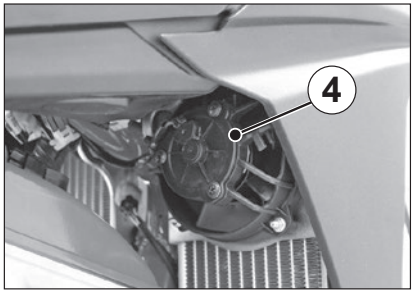
おしらせ

塗装面についた冷却液はとりづらいことがあります。その場合は水で洗い流してください。









スロットルコントロールケーブルを調整する

スロットルコントロールトランスミッションが正しく調整されていることを確認するため、次の手順を実施してください。

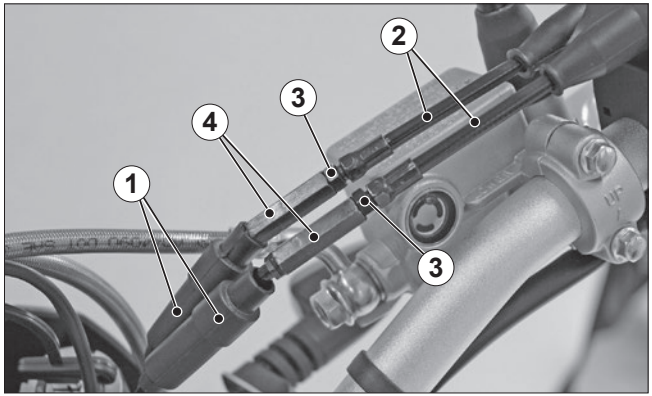
- 保護ゴムカバー(1)を移動します。
- ケーブル(2)を前後に動かしながら2mmの遊びがあることを確認します。
- 指定量の遊びがない場合、ロックナット(3)を緩め調整スクリュー(4)を適宜回します(スクリューを緩めると遊びが小さくなり、締めると遊びが大きくなります)。
- ロックナット(3)を締めなおします。

警告＊

スロットルケーブルが損傷した状態で運転することは危険です。

警告＊

排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。締め切った場所や密閉された場所では絶対にエンジンを運転させないでください。



クラッチコントロールレバーを調整する

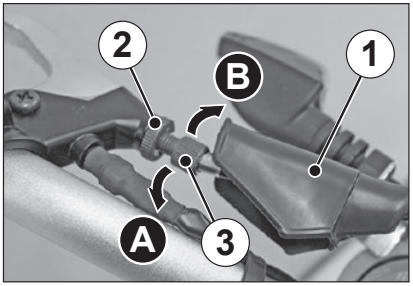
クラッチを調整するには、レバーにあるアジャスターを使ってケーブルの張り具合を調節する必要があります。

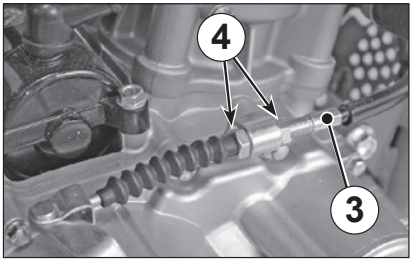
- ゴムプロテクター（1）を移動します。
- ブロッキングシール（2）を緩めます。
- アジャスター（3）で遊びを調整します。矢印（A）の方向に回すと遊びが小さくなり、（B）の方向に回すと遊びが大きくなります。クラッチの接続を外す前に、必ずコントロールレバーに最低10mm（0.39インチ）の遊び（V）がなければなりません。

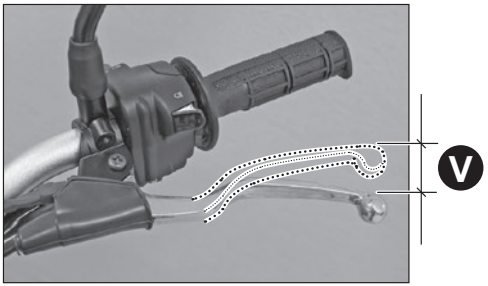
モーター右側にある張りアジャスター（3）で調整することもできます。

- ナット（4）を緩め、張りアジャスター（3）で調整します。

クラッチがかみ合っていないときでも調整後に荷重を受けてスライドしたり、引っ張られたりする場合には、分解して適切に点検する必要があります。







スパークプラグを確認する

スパークプラグ（2）の隙間は0.8mm（0.31インチ）とします。
これよりも隙間が広い場合、エンジンの始動がしにくくなり、コイルの過負荷が発生する場合があります。
隙間が狭すぎる場合、加速やアイドリングがしにくくなる、あるいは、低速での性能が悪くなる場合があります。

- コネクター（1）を外します。
- 2本のスクリュー（2）を外し、ブロッキングプレート（3）を外してから、コイルとスパークプラグが組まれた状態でキャップ（4）を外します。

スパークプラグを取り外す前に、その根元周辺の汚れをきれいにしてください。
エンジンからスパークプラグを取り外した直後にスパークプラグの状態を検証すると、プラグに付着した堆積物や、絶縁体の色が有効な指標となります。

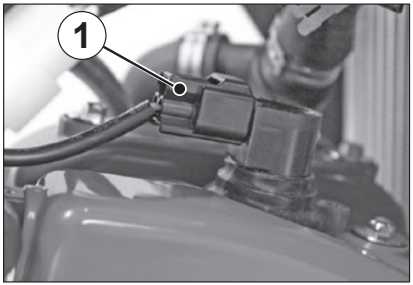
正しい熱価：
絶縁体の先端は乾燥し、色は薄茶色または灰色でなければなりません。

高熱価：
この場合、絶縁体の先端は乾燥し、暗い色の付着物で覆われています。

低熱価：
この場合、スパークプラグがオーバーヒートし、絶縁体の先端は陶化（光滑化）されて白または灰色になっています。

警告＊

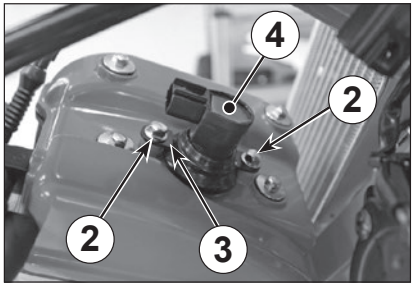
スパークプラグを交換する場合は、同じ熱価のものを使用してください。

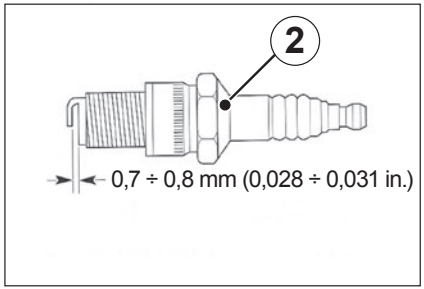


注意＊

スパークプラグの熱価が高すぎると過早点火やエンジン損傷が起こる可能性があります。スパークプラグの熱価が低すぎても、過剰な炭素付着物が発生して不具合につながることがあります。
プラグを再度組付ける前に、金属ブラシで電極と絶縁体の汚れをしっかりと取り除いてください。グラファイトグリースをスパークプラグのスクリュー部に塗り、指で所定の位置にしっかりと押し込み、次に、10÷12Nm-1.019÷1.22Kgm-7.37÷8.85ft/lbトルクに締め付けます。スパークプラグを緩め、次にもう一度10÷12Nm-1.019÷1.22Kgm-7.37÷8.85ft/lbトルクに締め付けます。ひび割れた絶縁体や腐食した電極があるスパークプラグは交換しなければなりません。

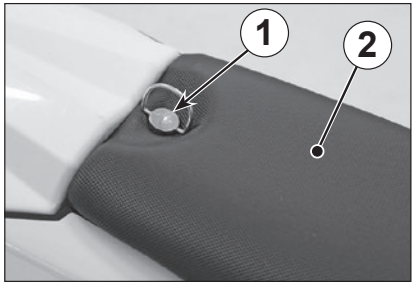
- スパークプラグにコイル（4）がついた状態のキャップを再度組み付けます。
- ブロッキングプレート（3）を再度組み付け、2本のスクリュー（2）を7Nm（5.1フィート／ポンド）で締めます。
- コネクター（1）を接続します。

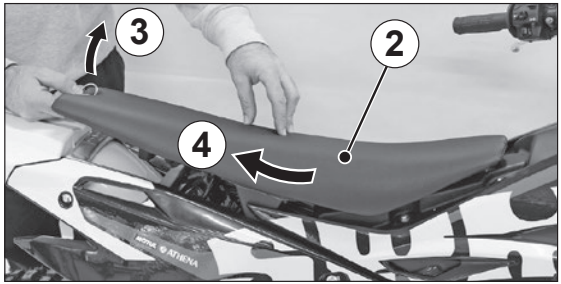




サドルを取り外す

一部の部品はサドルを取り外さないとアクセスできません。その場合、以下の手順に従って行います。





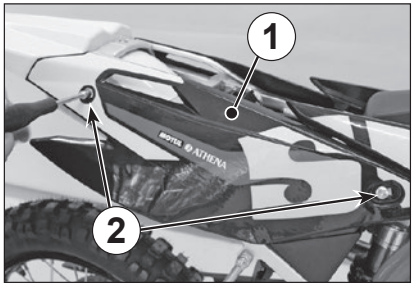
- 固定ピン（1）を反時計回りに回して、サドル（2）をロックポジションから解除します。
- サドルの後部を持ち上げて（3）、モーターサイクルの後部に向かって引くことで（4）ロックポジションから解除します。

右側パネルを取り外す

ヒューズとエアフィルターは右側パネル（1）の下にあります。

取り外す場合、以下の手順に従って行います。

- サドルを指定の手順どおりに取り外します。
- スクリュー（2）を緩め、パネル（1）を取り外します。



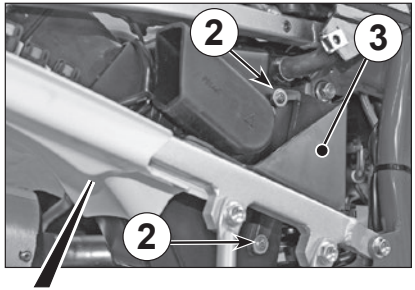
エアフィルターの確認、清掃および／または交換を行う

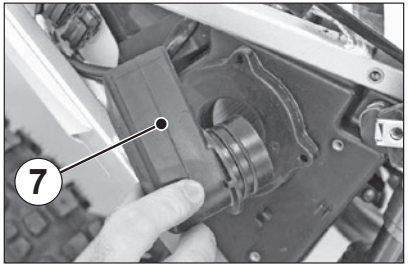
エアフィルターにアクセスする場合、以下の手順に従って行います。

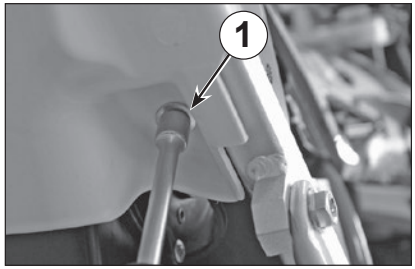
- 前述の手順どおりにサドルと右側パネルを取り外します。
- リアマッドガードの下にあるスクリュー（1）を緩めます。
- 2本のスクリュー（2）を緩め、プロテクター（3）を取り外します。
- 2本のスクリュー（4）を緩め、プレート（5）を取り外します。
- 2本のスクリュー（6）を緩めます。
- 吸引スリーブ（7）を取り外します。
- フィルター（8）をフィルターボックスから取り外します。
- 目詰まりがないか確認し、必要であれば内側から外側へコンプレッサーでエアを吹きかけて掃除します。汚れがひどい場合は交換します。

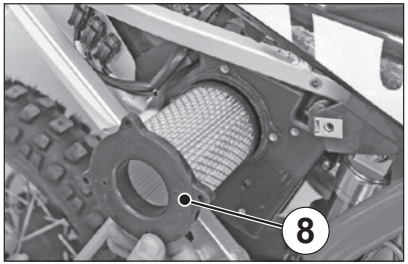
おしらせ

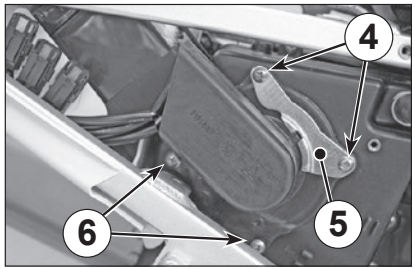
取外しと逆の手順ですべてを再度組み付けます。その際、シール（9）の状態を確認し、磨耗していれば交換します。また適切な溝にはまっていることを確認します。

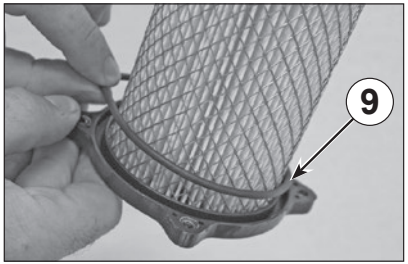






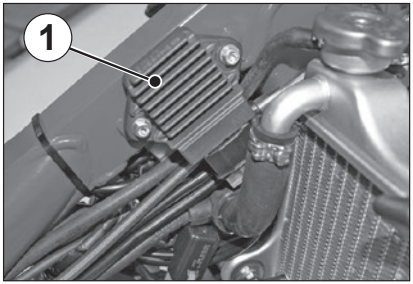






ボルテージレギュレーター

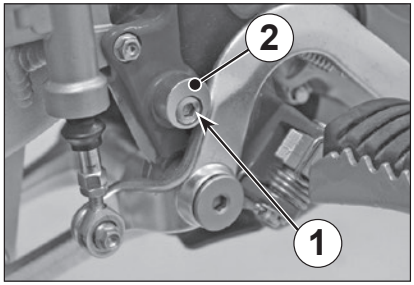
ボルテージレギュレーター(1)はシャーシの右側前方についています。

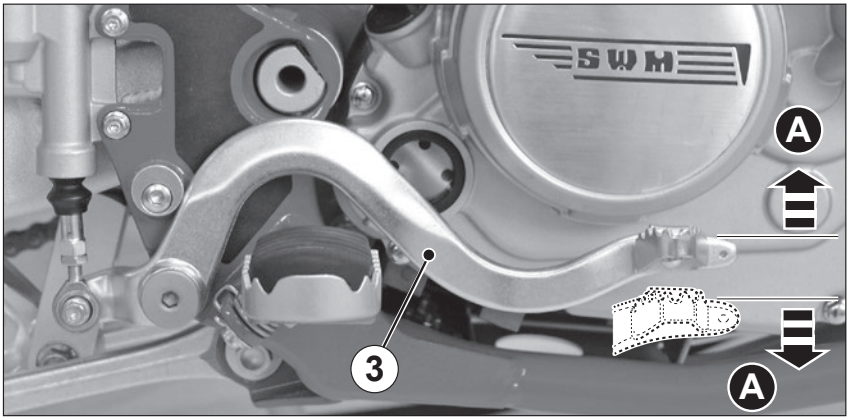


複合ブレーキペダルの位置を調整する

フットレストに対する複合ブレーキペダルの位置は、好みに合わせて調整可能です。調整する場合、以下の手順で行います。

- スクリュー(1)を緩めます。
- カム(2)を回して調整可能範囲(A)内でブレーキペダル(3)の上下位置を調整します。
- 調整ができたらスクリュー(1)を締めます。この調整が終わったら、以下の手順に従ってペダルの遊びを調整します。

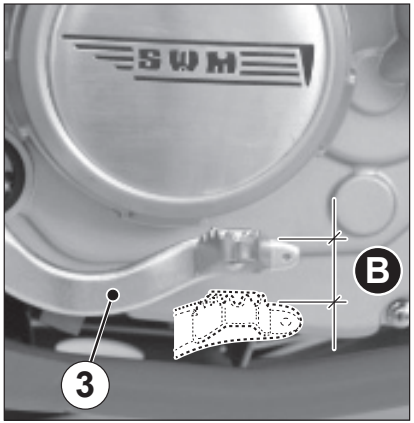




複合ブレーキの遊びを調整する

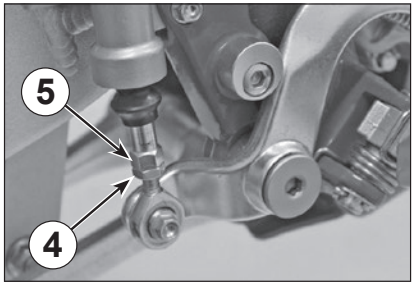
複合ブレーキコントロールペダル(3)にはブレーキの作動位置までに5mmの遊び(B)がなければなりません。
指定量の遊びがない場合は、以下の手順を行います。

- ナット(4)を緩めます。
- ポンプロッド(5)を動かして遊びを増減させます。
- 作業が終わったらナット(4)を締めます。



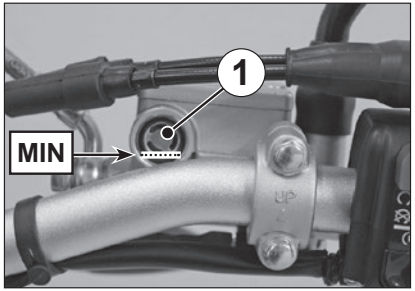
警告*

所定の遊びがない場合、ブレーキパッドが早期磨耗し、ブレーキがまったく効かなくなることがあります。



フロントブレーキ液のレベルを確認する

ポンプリザーバ内の液レベルは最低ラインより下には絶対にならないようにし、ポンプ本体の後部のサイトグラス(1)から確認します。液のレベルが減ると、システム内にエアが入り、レバーのストローク量が増えてしまいます。



警告＊

ブレーキレバーを引いた際に弱い感じがする場合、ブレーキライン内にエアが入っているか、ブレーキに不具合がある可能性があります。このような状態でモーターサイクルを運転することは危険ですので、すぐにSWM販売店でブレーキシステムを点検してください。

注意＊

塗装された表面や照明レンズの上にブレーキ液をこぼさないでください。

注意＊

2つのブランドのブレーキ液を混ぜないでください。別のブランドのブレーキ液に変える場合は、ブレーキシステム内のブレーキ液をすべて変えてください。

注意＊

ブレーキ液は刺激性の場合があります。皮膚や眼への接触は避けてください。接触した場合は、水で十分に洗い流し、目に入った場合は医師の診察を受けてください。

リアブレーキ液のレベルを確認する

ポンプリザーバ内の液レベルは最低ラインより下には絶対にならないようにし、ポンプ本体の後部のサイトグラス(1)から確認します。液のレベルが減ると、システム内にエアが入り、レバーのストローク量が増えてしまいます。

警告＊

ブレーキペダルを踏んだ際に弱い感じがする場合、ブレーキライン内にエアが入っているか、ブレーキに不具合がある可能性があります。このような状態でモーターサイクルを運転することは危険ですので、すぐにSWM販売店でブレーキシステムを点検してください。

注意＊

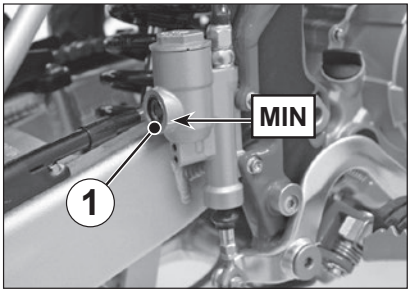
塗装された表面や照明レンズの上にブレーキ液をこぼさないでください。

注意＊

2つのブランドのブレーキ液を混ぜないでください。別のブランドのブレーキ液に変える場合は、ブレーキシステム内のブレーキ液をすべて変えてください。

注意＊

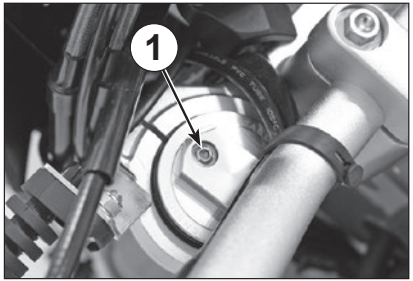
ブレーキ液は刺激性の場合があります。皮膚や眼への接触は避けてください。接触した場合は、水で十分に洗い流し、目に入った場合は医師の診察を受けてください。



フォークからエアを抜く

毎月フォークからエアを抜くために、ステムチェックを推奨します。

モーターサイクルをセンタースタンドに設置し、フォークを完全に伸側に伸ばしてエア抜きバルブ(1)を緩めます。この作業が終わったら、シーリングガスケットに注意しながらバルブを締めます。



サスペンションを調整する

リアサスペンションは運転者の体重または運転者と同乗者の合計体重、さらに路面状態に合わせて調整する必要があります。以下の手順で行います。

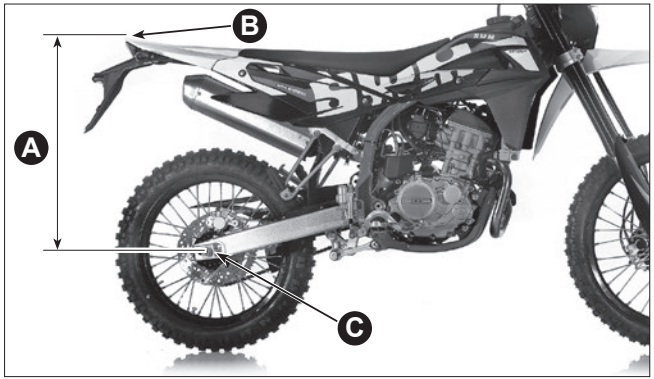
1) モーターサイクルを地面に直立した状態にして、距離(A)を測定します。
2) 運転時に着用する衣類等すべてを身につけて、通常通りのモーターサイクルのライディングポジションをとります。
3) 別の人に距離(A)を測りなおしてもらいます。
4) 2つの測定値の差がモーターサイクルのリヤ側「SAG」となります。推奨するSAGは0.98/1.18(25-30mm)です。
5) 自分の体重に適切なSAGをとるには、横に説明するサスペンションスプリングプリロードを調整します。

警告＊

サスペンションの調整はモーターサイクルの安定性とハンドリングの両方に影響を与えます。標準のサスペンション設定を変更した後は、注意して運転してください。いかなる変更をする前に、参考距離「A」を測定することをお勧めします。

警告＊

サスペンションには圧縮ガスが封入されているため、絶対に分解しないでください。主要なサービスに関してはSWM販売店にご連絡ください。



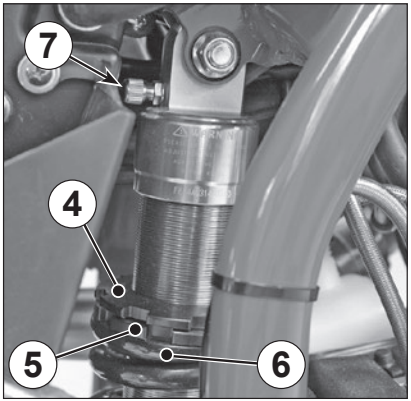
B:リヤマッドガードの最も高い点

C:リヤホイールシャフトの高さ

サスペンション スプリングプリロードを調整する

調整を行う場合は、次の手順を実施してください。

1) 指定の手順どおりにサドルと右側パネルを取り外します。
2) スプリング(6)のリングナット(4)と調整ナット(5)を掃除します。
3) 適切な工具を使用し、ロックリングナットを緩めます。
4) 定められた通りにアジャスターリングナットを回します。



おしらせ

サスペンションが正しく機能することを確実にするために、上記手順2のシール(5)を最大限まわすことが可能です。

5) 調整作業が完了したら(お客様の体重と乗車スタイルによります)、ロックリングナットを締め付けます。(トルク:50Nm – 5Kgm、36.87ft/lb)
6) サドルと右側パネルを再度組付けます。

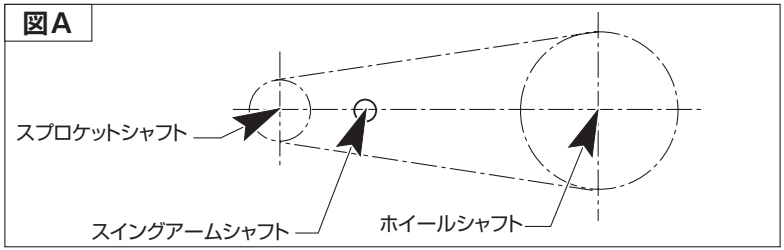
警告＊

サスペンションには加圧した窒素が封入されています。バルブ(7)は絶対に緩めないでください。ガスの漏れにつながり、サスペンションが正しく動作しなくなる可能性があります。

チェーンを調整する(図A)

安全性を確認して過度の摩耗を防止するため、メンテナンスチャートにしたがってチェーンの点検、調整ならびに潤滑を行わなければなりません。チェーンがひどく摩耗している、あるいはチェーンの調整が不十分(緩すぎる、あるいは張りすぎている)場合、スプロケットやブレーキから外れる可能性があります。

リアチェーンを調整するには、モーターサイクルの後部を押し下げてドライブスプロケットシャフト、リアスイングアームシャフト、リアホイールシャフトと横並びにする必要があります(図Aを参照)。その時チェーンの張りがわずかに遊ぶ程度に調整します。調整後、リアホイールを回転させ、チェーンの張りが一定であるか、数ヶ所で確認します。

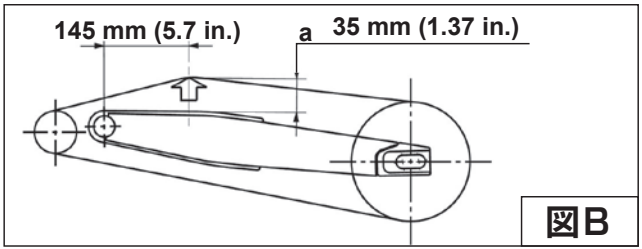


クイック調整(図B)

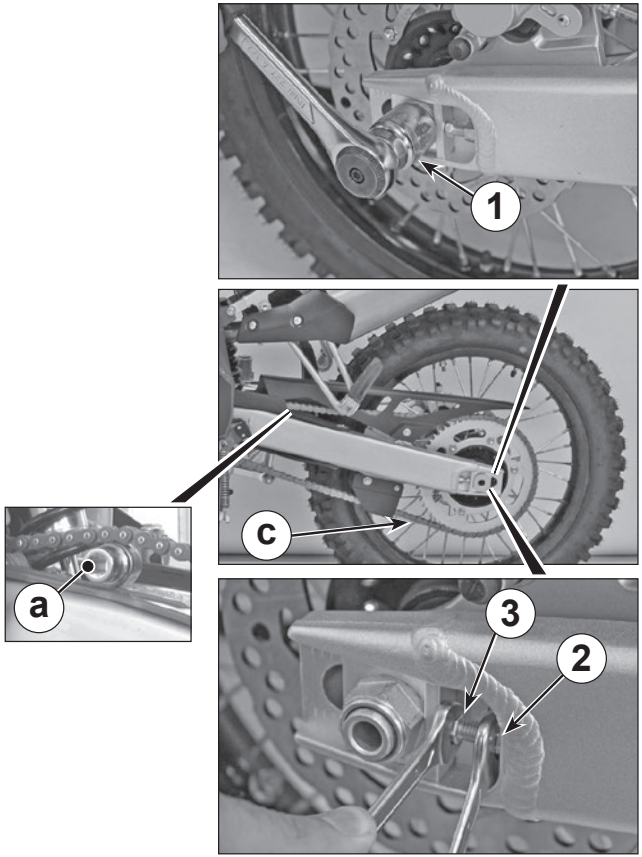
図示されたポイントでブッシュ(a)(径35mm(1.37インチ))(もしくは同じサイズのシム)を取付けて、チェーン下部(C)がほんの少し張ることを確認します。
そうならない場合は、以下の手順を行います。

- 右側で、ホイールピン固定ナット(1)を緩めます。
- 両側のチェーンストレッチャーにあるロックナット(2)を緩め、適切な張りになるようにスクリュー(3)を調整します。
- 調整が終わったら、ロックナット(2)とホイールピン固定ナット(1)を締めます。

調整が終わったらホイールのアライメントを確認します。



図B



チェーン／フロントスプロケット／リアスプロケットの摩耗を確認する

以下の手順で行います。

- 調整スクリューでチェーンをいっぱいに張ります。
- チェーンの20リンク目に目印をつけます。
- 第1ピンのセンターと第21ピンのセンターの距離「L」を測定します。

標準	磨耗の限界
241.3mm （9.50インチ）	245.9mm （9.68インチ）

フロントスプロケットの損傷や磨耗を確認し、磨耗の程度が図の限界を超えていれば交換します。

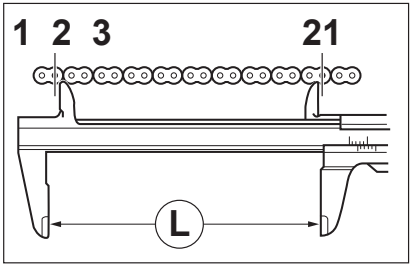
ホイールを取り外し、リアスプロケットの歯の磨耗を確認します。以下の図は普通の歯と過剰に磨耗した歯を示します。スプロケットの磨耗がひどければ、ハブ上の6本の固定スクリューを緩めて部品交換します。

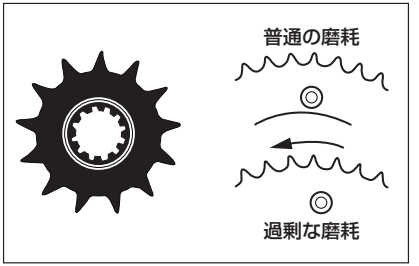
警告＊

ホイールのアライメントがずれていると過剰な磨耗につながり、危険な運転状態になる可能性があります。

おしらせ

泥や水気が多い状態だと、チェーンやスプロケットに泥がこびりつき、チェーンが張りすぎた状態になります。泥の多い路面を走るとフロントスプロケット、チェーン、リアスプロケットホイールの磨耗が増えます。





チェーンの潤滑を行う

以下の手順に従ってチェーン(1)を潤滑します。

注意＊

チェーンを潤滑する際にグリースは絶対に使用しないでください。グリースは、塵や泥の堆積を促進し、塵や泥の堆積物が研磨剤として作用し、チェーンやフロントスプロケット、リアスプロケットの早期摩耗の原因となります。

OR リングのないチェーンを掃除する

オイルまたはディーゼルオイルで洗浄します。ガソリンやトリクロロエチレンを使用する場合は、チェーンを清掃・潤滑して酸化防止します。

代わりにORリングのないチェーン用のスプレーを使うことも可能です。

OR リングのないチェーンを潤滑する

乾燥後、指定の二硫化モリブデン潤滑剤または粘性の高いモーターオイルを温めてやわらかくしたものでチェーンを潤滑します。

おしらせ

代わりに適した潤滑スプレーを使用することも可能です。

注意＊

チェーン用潤滑剤は絶対にタイヤやリアブレーキディスクに付着させないでください。

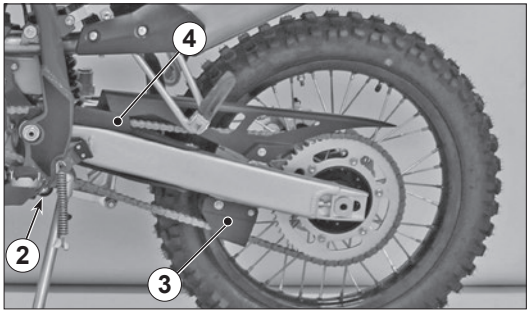
チェーンガイドローラー、チェーンガイドアイ、チェーンスライダー

上記の要素の磨耗度を確認し、必要であれば交換します。

注意＊

チェーンガイドのアライメントを確認します。要素が曲がったりしているとチェーンを早期磨耗させてしまうことを念頭においてください。このような場合は、チェーンがスプロケットから外れてしまう可能性があります。

2 – チェーンガイドローラー
3 – チェーンガイドアイ
4 – チェーンスライダー



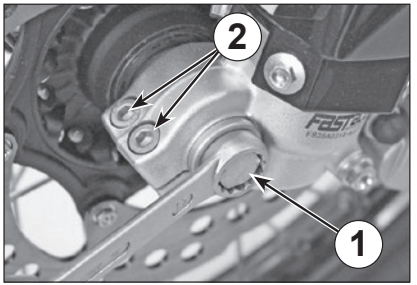
フロントホイールを外す

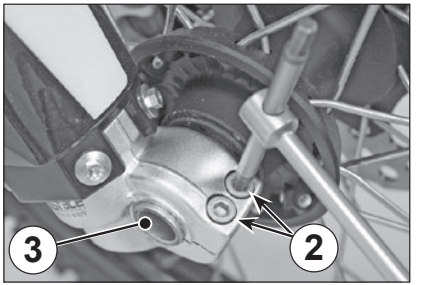
エンジンの下にスタンドかブロックをセットし、フロントホイールが地面から浮いた状態であることを確認します。

- スクリュー（1）は取り外さずに緩めます。
- フロントフォーク組付け器具に対してホイールシャフト（3）を止めているスクリュー（2）を緩めます。
- ピン（3）が出るようにスクリュー（1）を押してから、スクリュー（1）を完全に緩めてピン（3）を取り外します。

おしらせ

ホイールを外した状態でフロントブレーキレバーを操作しないでください。操作した場合、キャリパーピストンが外側に出てしまいます。ホイールを取り外した後は、ブレーキディスクを上にしてホイールを置いてください。





フロントホイールを組み付ける

（写真は次のページ）

右側スペーサー（D）をホイールハブにはめます。

ブレーキディスクがキャリパーに入るようにホイールをフォークレッグの間にはめます。

グリスを塗布した後に右側からホイールシャフト（1）をはめ、左側のフォークレッグに対していっぱいに押します。この際、ホイールは回転させます。左側フォークのスクリュー（2）を仮締めします。

ここで、フォークレッグが正しい位置に収まるように、ハンドルバーを押し、フォークを上下にストロークさせます。

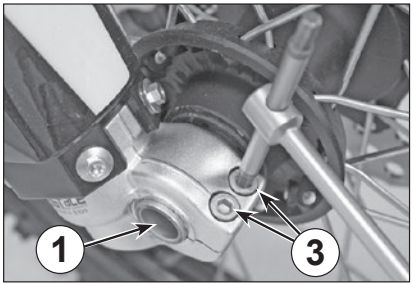
右側のレッグのスクリュー（3）をロックします（20Nm-2.04Kgm-14.75ft/lb）。

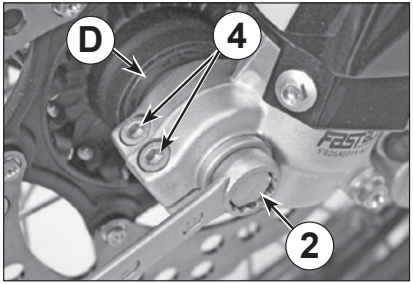
左側のスクリュー（2）をロックします（120Nm-12.3Kgm-88.51ft/lb）。

左側のレッグのスクリュー（4）をロックします（20Nm-2.04Kgm-14.75ft/lb）。

おしらせ

ホイールを再度組付けた後は、ブレーキコントロールレバーの握りごたえが感じられるまでブレーキコントロールレバーを操作してください。

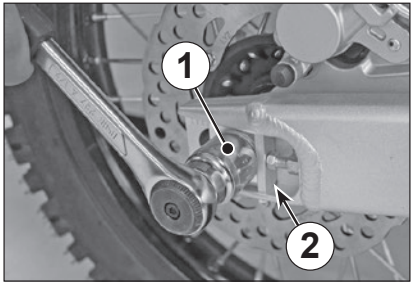




リアホイールを外す

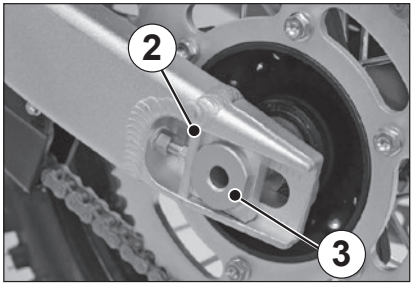
ホイールシャフト（3）のナット（1）を緩めて引き抜きます。チェーンテンショナー（2）を緩める必要はありません。このようにするため、チェーンのテンションは再度組付けた後も変わりません。ハブ両側にスペーサーを維持した状態で、リアホイール全体を抜き出してください。

再び組付ける場合は、キャリパー内にブレーキディスクを挿入することを忘れずに、取外しと逆の手順を実施してください。リアホイール組み付け後は、チェーンの張り具合を確認、または調整を実施して下さい。



おしらせ

ホイールを外した状態でリアブレーキペダルを操作しないでください。操作した場合、キャリパーピストンが外側に動いてしまいます。ホイールを外した後は、ブレーキディスクを上にしてホイールを置いてください。ホイールを再度組付けた後は、ブレーキペダルの踏みごたえが感じられるまでブレーキペダルを操作してください。



タイヤ

タイヤは適切な量のエアが入っているよう注意してください。マニュアル冒頭の「テクニカルデータ」表を参照して適切な空気圧を保ってください。タイヤの磨耗が以下の表の磨耗量の目安を超えるようであればタイヤを交換してください。

タイヤ接地面の最低高

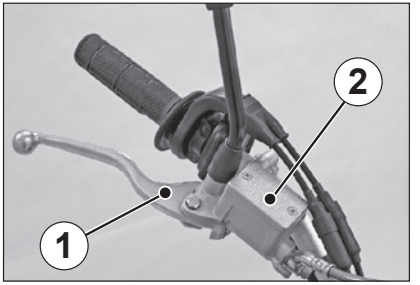
	RS	SM
フロント	3.048mm (0.12インチ)	2.032mm (0.08インチ)
リア	3.048mm (0.12インチ)	2.032mm (0.08インチ)

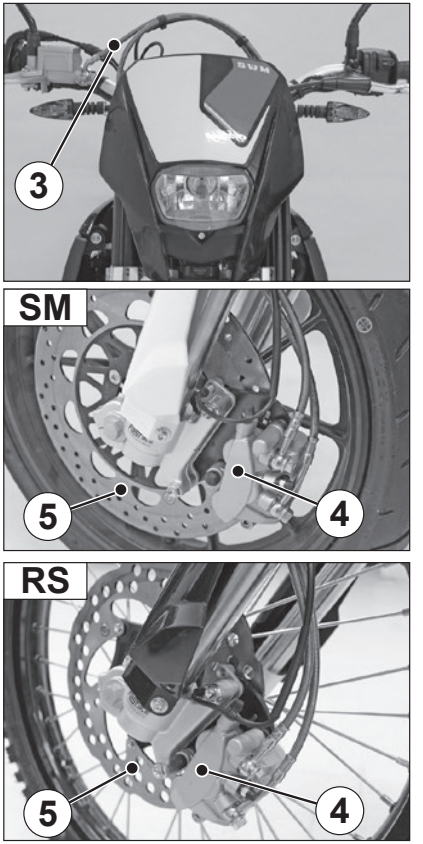
ブレーキ

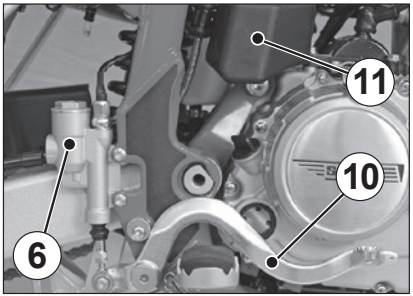
2つの装置の主な構成部位はブレーキポンプとそのレバー(フロント)、複合ブレーキペダル、ホース、クランプ、およびディスクです。

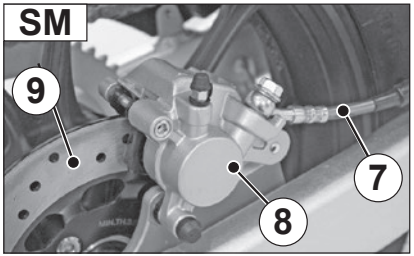
図の説明

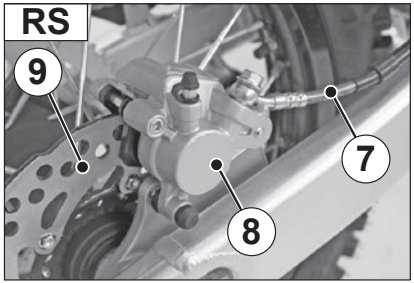
1) フロントブレーキコントロールレバー
2) フロントブレーキマスターシリンダー、液タンク付き
3) フロントブレーキホース
4) フロントブレーキキャリパー
5) フロントブレーキディスク
6) 複合ブレーキポンプ、オイルタンク付き
7) リアブレーキホース
8) リアブレーキキャリパー
9) リアブレーキディスク
10) 複合ブレーキコントロールペダル
11) 複合ブレーキユニット











ブレーキパッドを取り外す

フロントパッド

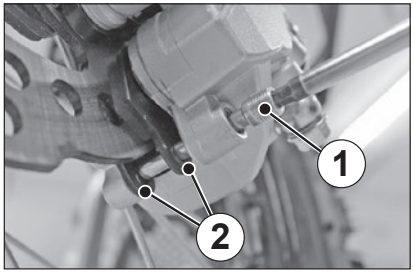
– ピン(1)を緩め、パッド(2)を取り外します。

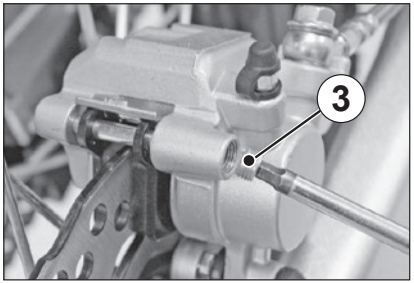
リアパッド

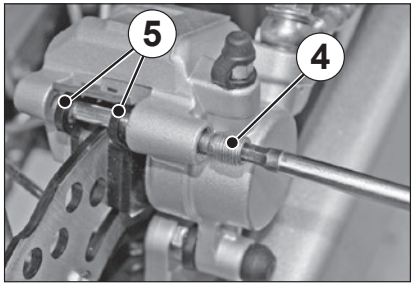
– キャップ(3)を緩めます。
– ピン(4)を緩め、パッド(5)を取り外します。

警告＊

パッドを取り外している間はブレーキレバーやペダルを操作しないでください。

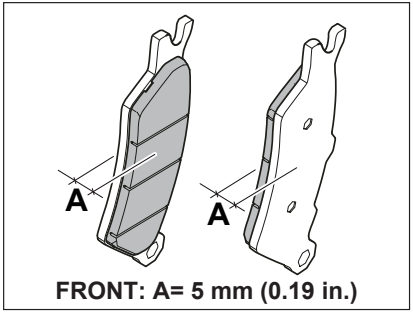


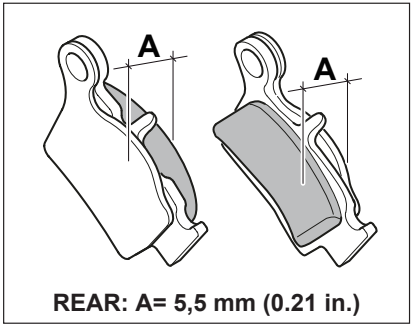




パッドの磨耗

ブレーキパッドの磨耗度を確認します。
該当する図に示す使用限界「A」を守ってください。
使用限界を超えている場合は、必ず両方のパッドをセットで交換します。





パッドを清掃する

ブレーキパッドやディスクにはブレーキ液やいっさいのオイルが付着しないよう注意してください。誤って液やオイルがパッドやディスクについた場合はアルコールでふき取ります。充分にふき取れない場合は新品のパッドに交換してください。

パッドを取り付ける

パッドを再度組み付ける場合は、取り外しと逆の手順で行います。

警告＊

ブレーキレバーやペダルの効果が完全に確認できるまでモーターサイクルには乗らないでください。パッドがディスクに接触するまでブレーキレバーやペダルを「ポンピング」します。レバーやペダルを1回にぎる／踏み込むだけではブレーキは機能しません。

ブレーキディスクの磨耗

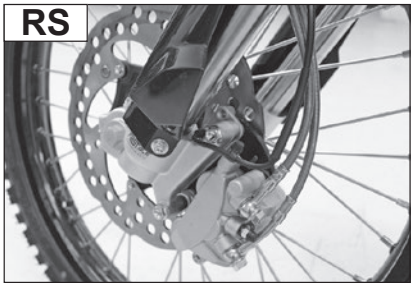
各ディスク上の最も磨耗が激しい部分の厚みを測定します。使用限界以上に磨耗が進んでいる場合はディスクを交換します。

ディスク厚み

ディスク		標準	使用限界
フロント	RS	3.5mm（0.13インチ）	3.0mm（0.11インチ）
	SM	4.0mm（0.15インチ）	3.5mm（0.13インチ）
リア		4.0mm（0.15インチ）	3.5mm（0.13インチ）

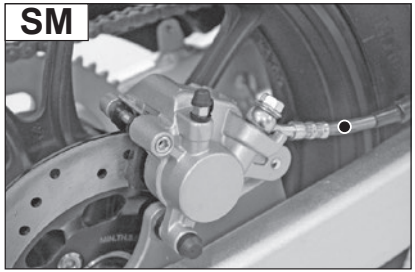
ディスクを清掃する

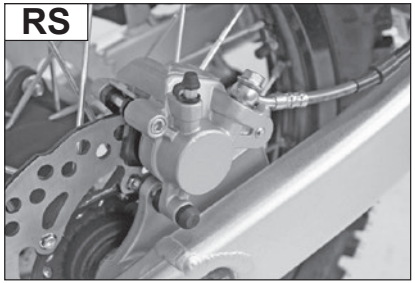
ディスク上にオイルが付着するとブレーキの効きが悪くなります。ディスクについたオイルやグリースは、アセトン、シンナーなど油を含まない高引火点の溶剤でふき取らなければなりません。



エキゾーストマフラー

エキゾーストガスの騒音を抑えるマフラーはエキゾーストの不可欠な部分です。従ってマフラーの状態はモーターサイクルのパフォーマンスに影響します。
エキゾーストからの音が大きすぎる場合は、マフラー内の防音剤が劣化していることを意味します。

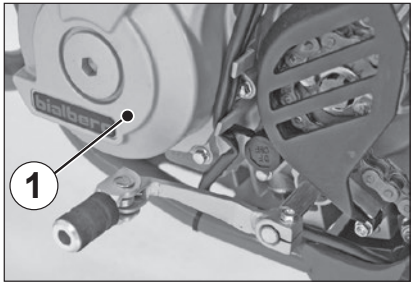


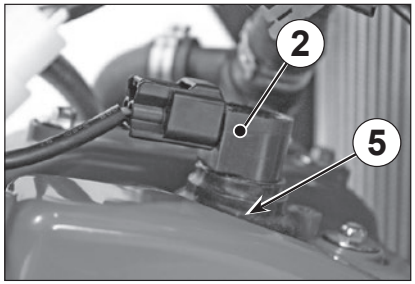


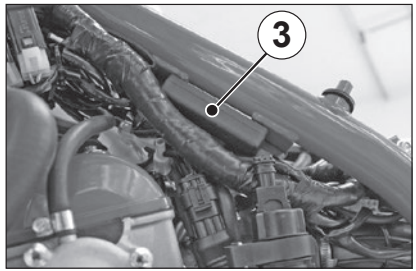
電気部品の位置

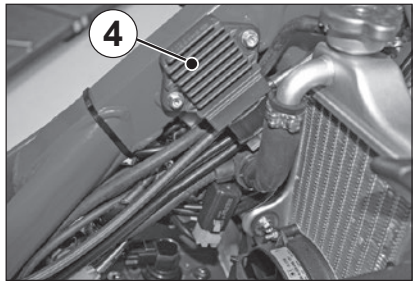
イグニッションシステムには次の要素が含まれています。

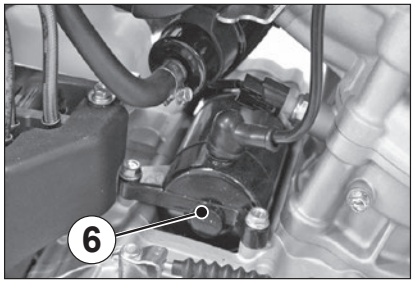
- 湿式ジェネレーター（1）：左側クランクケースカバーの内側
- 電子コイル（2）：スパークプラグピペットに組み込まれています
- 電子パワーユニットC.D.I.（3）、燃料タンクの下
- ボルテージレギュレーター（4）：燃料タンク下
- スパークプラグ：シリンダーヘッドの中央の（5）
- スターターモーター（6）：シリンダーの後ろ側
- スターターリレー（7）：リアシャーシの左側
- T.P.S.センサー（ガス制御ポジション）（8）：スロットルボディ上

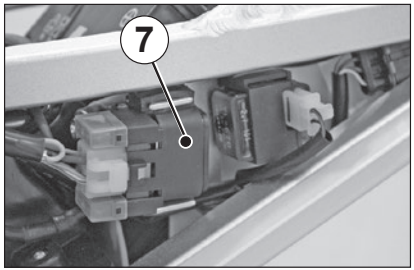


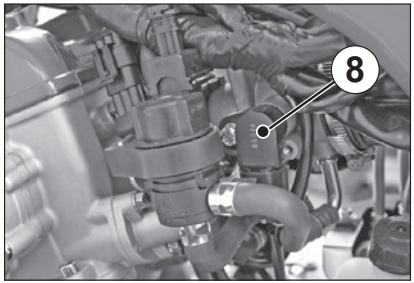






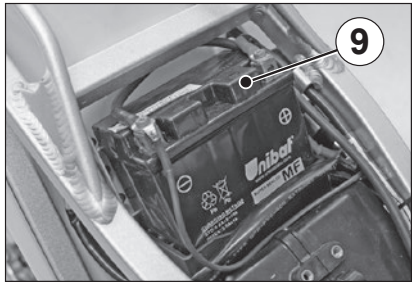


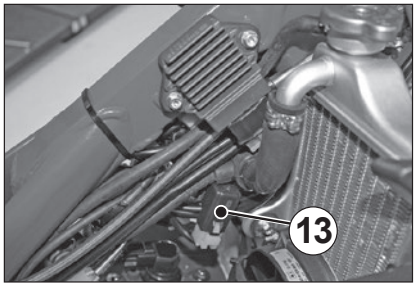


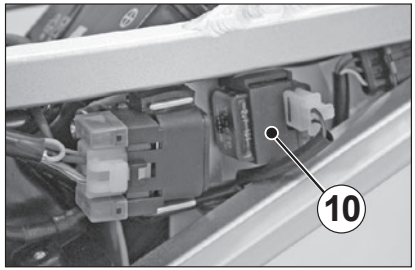


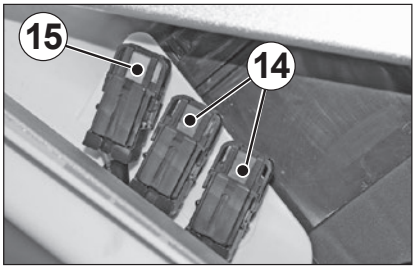
電気システムには次の要素が含まれています。

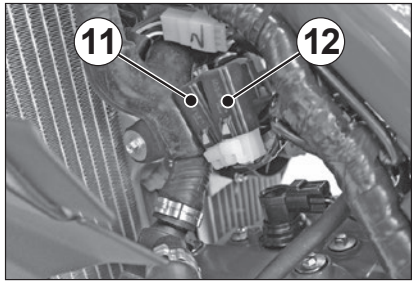
- バッテリー12V-6Ah：サドル下
- ウィンカーリレー（10）：リアシャーシの左
- リレー：タンク下のシャーシ左前方
- ウィンカー、ストップライト、ディップトヘッドライト、ハイビームリレー（11）
- リレー（12）：インジェクター、ラムダセンサー、燃料ポンプ、コイル
- ソレノイドバルブリレー（13）
- 15Aヒューズ2本（14）と20Aヒューズ1本（15）：リアシャーシの右側
- 水温センサー（16）

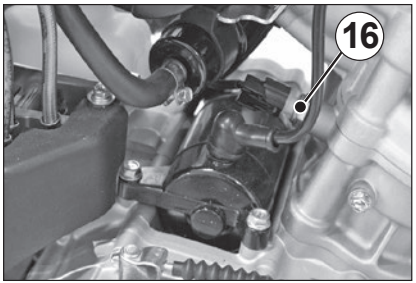




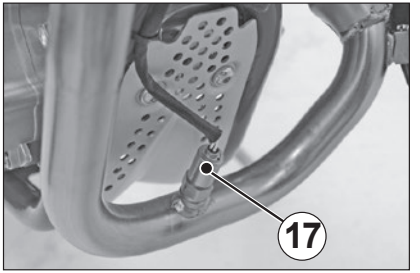


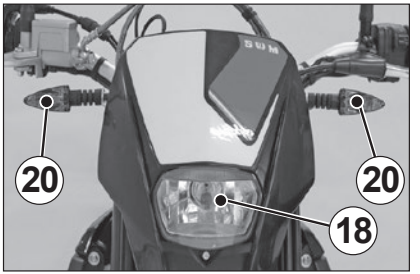


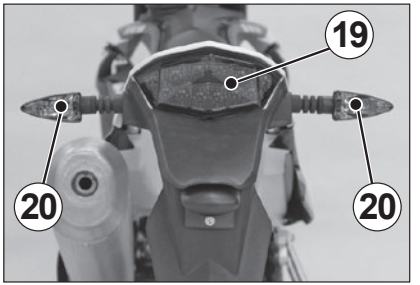


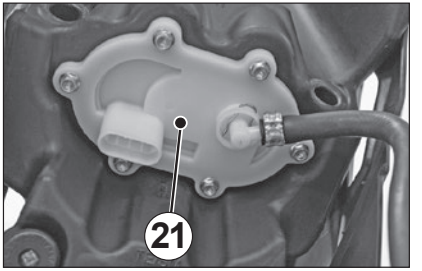


- ラムダプローブ（17）
- ヘッドランプ（18）：12V-35/35Wのフィラメント2本付き電球と12V－5Wのパーキングライト用電球
- LEDテールライト（19）：12V-21Wの停止警告ライトと12-5Wのポジションライト
- ウィンカー用電球（20）：12V-10W







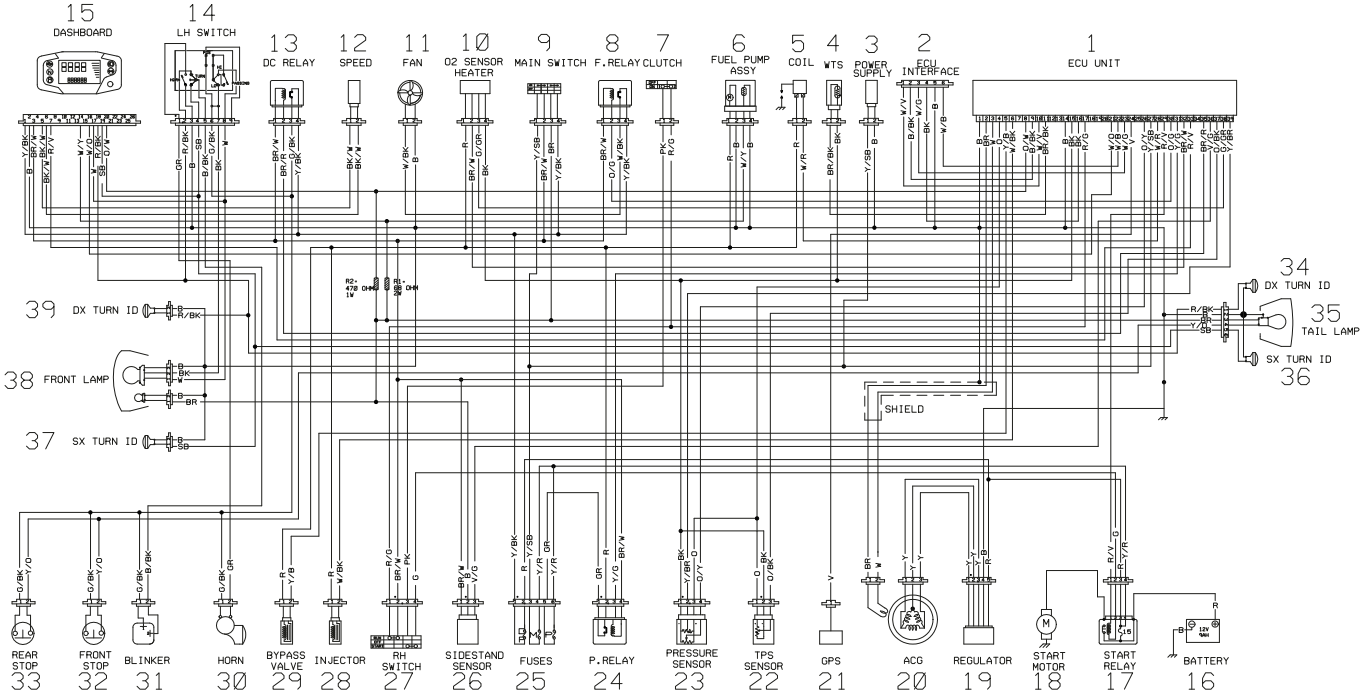


ケーブルのカラーコード

B	青
B/Bk	青/黒
Bk	黒
Br	茶
Br/Bk	茶/黒
Br/R	茶/赤
Br/W	茶/白
G	緑
G/Bk	緑/黒
G/Gr	緑/茶
G/Gr	緑/灰
G/R	緑/赤
Gr	灰
Gr/B	灰/青
Gr/Bk	灰/黒
O	橙
O/Bk	橙/黒
O/G	橙/緑
O/W	橙/白
O/Y	橙/黄
Pk	桃
R	赤
R/G	赤/緑
R/V	赤/紫
R/Bk	赤/黒
Sb	スカイブルー
V	紫
V/G	紫/緑
W	白
W/B	白/青
W/Bk	白/黒
W/G	白/緑
W/O	白/橙
W/R	白/赤
W/V	白/紫
W/Y	白/黄
Y	黄
Y/Bk	黄/黒
Y/Br	黄/茶
Y/G	黄/緑
Y/O	黄/橙
Y/Sb	黄/スカイブルー
Y/B	黄/青
Y/R	黄/赤

配線図中主要構成部品

1) 電子パワーユニット
2) パワーユニットインターフェース
3) 電源
4) 水温センサー
5) H.T.コイル
6) 燃料ポンプ
7) クラッチマイクロスイッチ
8) 電気ファン用リレー
9) イグニッションスイッチ
10) ラムダプローブ
11) 冷却ファン
12) 速度センサー
13) 直流リレー
14) 左側スイッチ
15) インストゥルメント
16) バッテリー
17) スターターリレー
18) 始動モーター
19) ボルテージレギュレーター
20) 交流発電機
21) ギヤシフトポジションセンサー
22) スロットルポジションセンサー
23) 圧力センサー
24) パワーリレー
25) ヒューズ
26) サイドスタンドスイッチ
27) 右側スイッチ
28) インジェクター
29) バイパスバルブ
30) ホーン
31) ウインカーリレー
32) フロントストップスイッチ
33) リアストップスイッチ
34) 右側リアウインカー
35) テールライト
36) 左側リアウインカー
37) 左側フロントウインカー
38) フロントヘッドランプ
39) 右側フロントウインカー


15 DASHBOARD
14 LH SWITCH
13 DC RELAY
12 SPEED
11 FAN
10 O2 SENSOR HEATER
9 MAIN SWITCH
8 F.RELAY
7 CLUTCH
6 FUEL PUMP ASSY
5 COIL
4 WTS
3 POWER SUPPLY
2 ECU INTERFACE
1 ECU UNIT
39 DX TURN ID
38 FRONT LAMP
37 SX TURN ID
34 DX TURN ID
35 TAIL LAMP
36 SX TURN ID
SHIELD
R2: 470 OHM 1W
R1: OHM
33 REAR STOP
32 FRONT STOP
31 BLINKER
30 HORN
29 BYPASS VALVE
28 INJECTOR
27 RH SWITCH
26 SIDESTAND SENSOR
25 FUSES
24 P.RELAY
23 PRESSURE SENSOR
22 TPS SENSOR
21 GPS
20 ACG
19 REGULATOR
18 START MOTOR
17 START RELAY
16 BATTERY

バッテリー

密封されたバッテリーはメンテナンスの必要がありません。電解液の漏れやその他の電気システムの不良が確認された場合は、SWM販売店にご連絡ください。長期間モーターサイクルを使用していない状態が続く場合、電気システムからバッテリーの接続を外し、乾燥した場所での保管が推奨されます。

- バッテリーを集中的に使用した後は、標準的なスロー充電サイクル（12V-6Ahバッテリー：0.6Aで8時間）を実施することが望ましいです。
- クイック充電（12V-6Ahバッテリー：6Aで0.5時間）は、鉛部分の寿命を大幅に短縮するため、例外的に必要とされる状況のみで実施することが望ましいです。

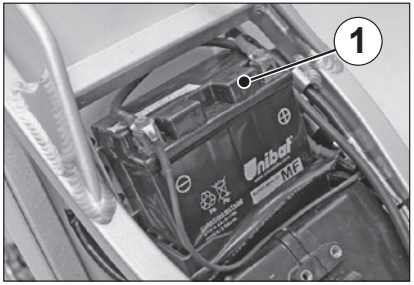
バッテリー充電器

バッテリー（1）にアクセスする場合は次の手順を実施してください。

- 前項の手順どおりにサドルを外します。
- 最初に黒色または青色のマイナスケーブル（2）を外し、次に、赤色のプラスケーブル（3）を外す（再度取付ける場合は、最初に赤色のプラスケーブルを接続し、次に黒色または青色のマイナスケーブルを接続します）。
- ハウジングからバッテリー（1）を取り外します。

電圧計を使用して、バッテリー電圧が12.5V以上あることを確認してください。そうではない場合、バッテリーの充電が必要です。

一定電圧のバッテリー充電器を使用して、最初に赤色のプラスケーブルをバッテリーのプラス端子に接続し、次に、黒色または青色のマイナスケーブルをバッテリーのマイナス端子に接続します。



数時間経過後はじめて電圧が一定電圧に達するため、バッテリーの充電または放電の直後に電圧を測定しないようにしてください。

バッテリー充電の確認は、モーターサイクルにバッテリーを再度組付ける前に必ず行ってください。

バッテリーは清潔に保ち、端子はグリースでコーティングされた状態でなければなりません。

警告＊

バッテリーには希硫酸が含まれています。皮膚、眼、衣類への接触を避けてください。
対処法:
肌への接触:大量の水で洗い流します。
飲み込んだ:大量の水を飲みます。ただちに医師の診察を受けてください。嘔吐させようとしてはいけません。
眼に入った:15分以上水で洗い流し、ただちに医師の診察を受けてください。

警告＊

バッテリーを使用しない状態でおいて置く場合、少なくとも3週間ごとにスローサイクル（12V-6Ahバッテリー:0.6Aで8時間）で必ず再充電しなければなりません。

警告＊

バッテリーは爆発性ガスを発生させるため、充電時や屋内使用時には換気してください。バッテリー充電器を使用する際は、充電器の電源を入れる前に必ずバッテリーに接続してください。こうすることによって、バッテリーのガスに点火する可能性のあるバッテリー端子の火花の発生が防止されます。

ヘッドランプの電球を交換する

（下記内容を説明する写真は次のページに記載しております。）

ヘッドランプの電球にアクセスするには、以下の手順で行います。

- ヘッドランプキャリアを計器パネル支持部へ固定している上側のスクリュー（1）を取り外します。
- ヘッドランプキャリア（B）を前方へ押してから高い方（C）へ引いて、2つの下支持部のかみあわせを外します。
- ヘッドランプキャリアを取り外します。
- 2本のフィラメント付き電球コネクター（2）と下部（3）を取り外します。
- 電球保持バネ（4）を外してから電球（5）を取り外します。

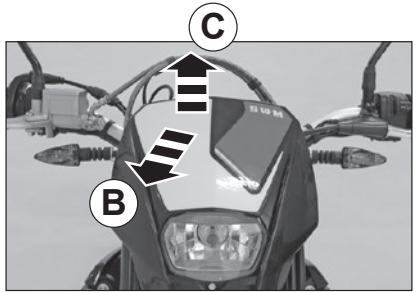
おしらせ

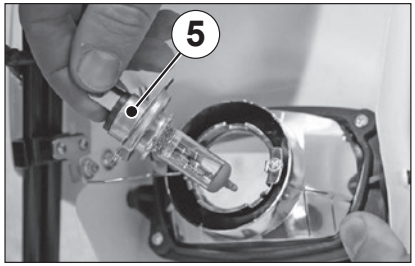
ヘッドランプ電球（7）はハロゲン電球です。素手でガラスの部分を触らないように交換時には注意してください。

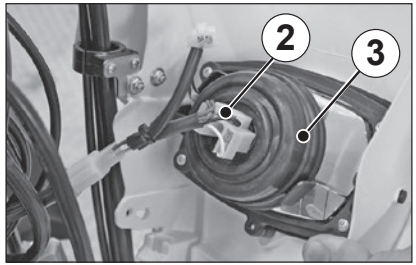
ポジションライトの電球を交換するには以下の手順で行います。

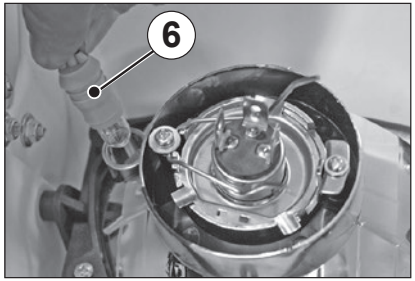
- ランプホルダー(6)を取り外し、ランプ(7)を交換します。

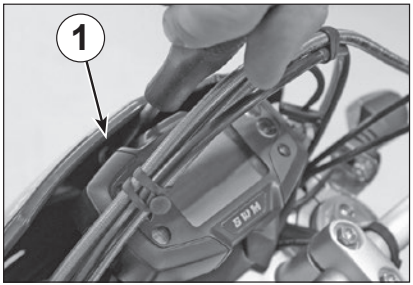
交換したら、逆の手順で再度組み付けます。

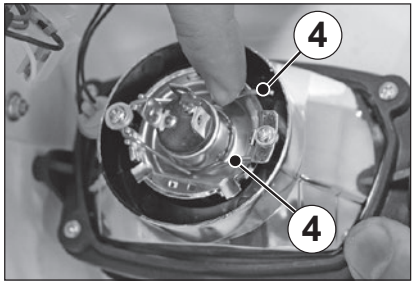


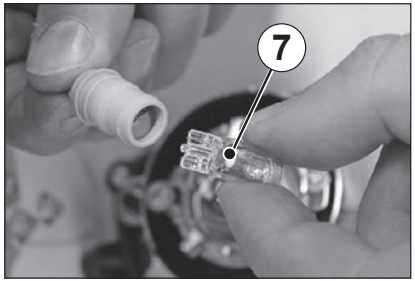






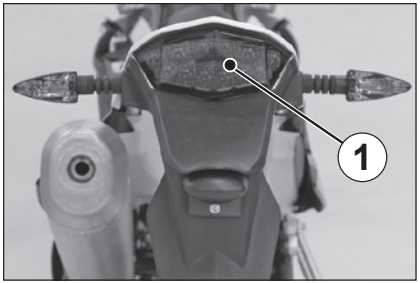






テールライト

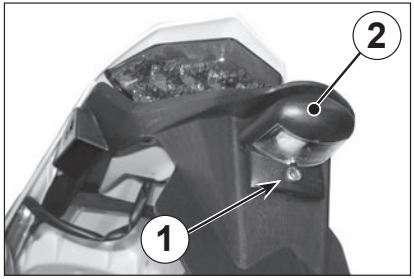
テールライト（1）はLED電球です。電球が切れたら交換してください。

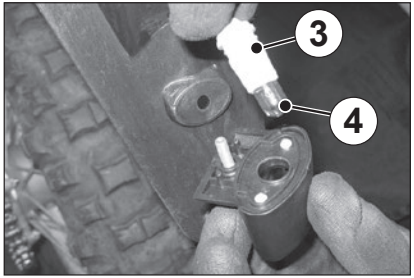


ナンバープレートライトの電球を交換する

- スクリュー（1）を緩め、ナンバープレートライトの電球（2）をマッドガードから取り外します。
- 電球ホルダー（3）と電球（4）を支持部から取り外します。
- 電球（4）を引っ張って電球ホルダーから外します。

電球を交換したら、上記の手順を逆に行って再度組み付けます。





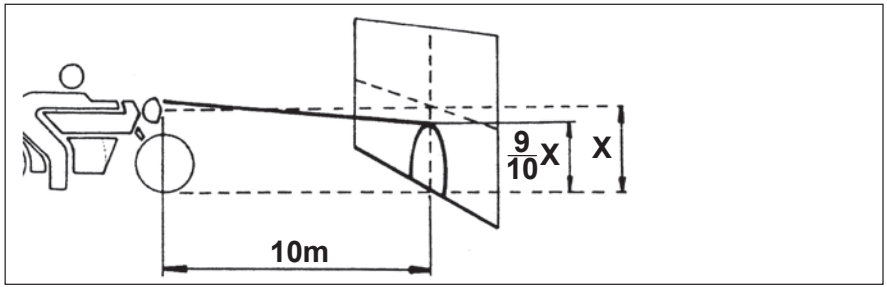
ヘッドライトを調整する

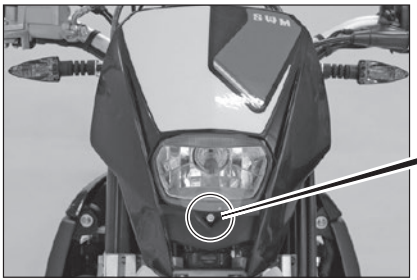
ヘッドライトのビームが正しい目標に設定されているかを確認する場合、正しい空気圧にタイヤの空気を入れ、モーターサイクルに1名跨った状態にし、壁またはスクリーンから10メートル（33フィート）の場所でモーターサイクルを垂直に設定します。次に、ヘッドライト中央の高さで水平のラインをトレースし、さらに、モーターサイクルの縦軸に一致させて垂直のラインをトレースします。

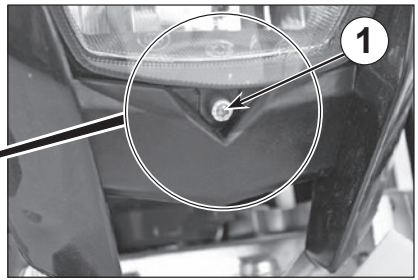
可能であれば、影のある場所でこの作業を行ってください。ロービームをオンにしている場合、暗いエリアと明るいエリアの間の上端は、地面からヘッドライト中央部の9/10の地点でなければなりません。

ビームの高さの調整は次の手順で行うことができます。

- 調整スクリュー（1）で調整します。ビーム方向を下げるにはスクリューを締め、上げるには緩めます。

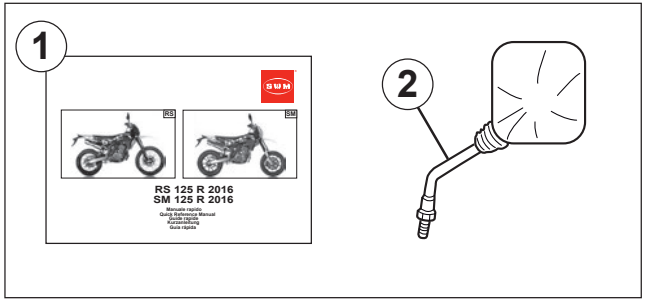






備付

Pos	品　番	品　名
1	A000P01895	多言語クイックマニュアル（1）
2	FA00P01471	右側バックミラー（1）
	F000P01471	左側バックミラー（1）



付録

長期間使用しない場合

モーターサイクルを一定期間保管する予定の場合、次の手順で保管の準備をしてください。

- モーターサイクル全体を完全に清掃します。
- 燃料タンクから燃料をすべて抜きます。
- 安定剤を添加した燃料でタンクを充填します。

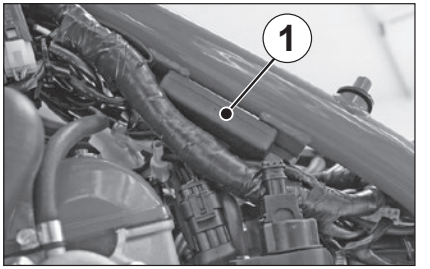
警告＊

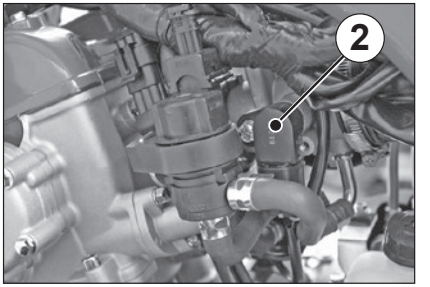
燃料を環境中に絶対に放出しないでください。また、屋内でエンジンを絶対に作動させないでください。

- ドライブチェーンおよびすべてのケーブルを潤滑します。
- 錆を防止するため、すべての未塗装金属表面に防錆剤をスプレーします。ゴム部品やブレーキに防錆剤がかからないようにしてください。
- サポートまたはスタンド上にモーターサイクルを設置し、両輪が地面から持ち上げられた状態にしてください（これが不可能な場合、両輪の下にボードを入れて、タイヤに水分が付かないようにしてください）。
- 水分の進入を防止するため、エキゾーストパイプをビニール袋で覆って閉じます。
- 塵や泥の堆積を防止するため、モーターサイクルにカバーをかけます。

保管後に使用可能な状態にモーターサイクルを戻すためには、次の手順を実施してください。

- スパークプラグがしっかり閉まっているか確認します。
- 燃料タンクを充填します。
- オイルを温めるためにエンジンを作動させ、次に、オイルを排出します。
- 新しいオイルを充填します。
- 点検と調整の項（付録A）に記載されたすべての箇所を確認します。
- 「潤滑」の項（付録A）に記載されたすべての場所を潤滑します。





洗車

モーターサイクルを洗車する前に、次の部分を正しく保護する必要があります。

a)マフラーの後部開口部
b)エアフィルター吸気口
c)クラッチレバーとブレーキレバー、グリップ、ハンドルバースイッチ
d)フォークヘッド、ホイールベアリング
e)リアサスペンションリンク類

電気部品と燃料噴射供給システム、特に電子制御ユニット(1)とT.P.S.ユニット(2)には高圧エアや高圧水を噴射しないでください。

洗車後は次の手順を実施してください。

- 「メンテナンス表」(付録A)に記載された箇所を潤滑します。
- エンジンを短い間暖機します。
- モーターサイクルに乗る前にブレーキテストを行います。

警告＊

ブレーキディスクにワックスや潤滑剤を絶対に使用しないでください。使用した場合、ブレーキ効率の損失と事故につながるおそれがあります。ディスクを掃除する場合は、アセトンなどの溶剤を使用してください。

納車前点検

項目	作業	納品前
エンジンオイル	レベルの確認	□
2ストローク混合オイルレベル	レベルの確認	□ ※
冷却液	レベルの確認/補充	□
冷却システム	漏れがないか確認	□
電気ファン	動作の確認	□ ※※
スパークプラグ	確認/交換	□
スロットルボディ/キャブレター	確認と調節	□
ブレーキ/クラッチ液	レベルの確認	□
ブレーキ/クラッチ	動作の確認	□
ブレーキ/クラッチ	ラインに漏れがないか確認	□
スロットルコントロール	動作の確認	□
スロットルコントロール	遊びの確認/調節	□
チョーク制御	動作の確認	□
フレキシブルコントロールとトランスミッション	確認/調節	□
ドライブチェーン	確認/調節	□

※　2ストロークエンジンのモーターサイクルのみ
※※　一部のモデルのみ

項目	作業	納品前
タイヤ	空気圧の確認	□
サイドスタンド	動作の確認	□
サイドスタンドスイッチ	動作の確認	□
電気装置	動作の確認	□
計器パネル	動作の確認	□
ライト/視覚シグナル	動作の確認	□
ホーン	動作の確認	□
ヘッドライト	動作の確認	□
イグニッションスイッチ	動作の確認	□
ロック	動作の確認	□
スクリューとナット	確認/締付け	□
ホースクランプ	確認/締付け	□
一般的な潤滑		□
一般的なテスト		□

索引

い

イグニッションスイッチ …… 20

う

運転…… 24

運転者ならびに同乗者が乗車／降車する …… 26

え

エアフィルターの確認、清掃および／または交換を行う …… 39

エキゾーストマフラー …… 53

エンジンを始動する …… 28

お

オイルフィルターを交換する …… 33

オイルレベルを確認する …… 31

オイルを交換する …… 32

き

キー…… 9

ギヤシフトコントロール…… 23

く

クイック調整 …… 45

クラッチコントロール…… 22

クラッチコントロールレバーを調整する …… 36

け

ケーブルのカラーコード …… 57

こ

子供に関する注意事項…… 4

コントロール …… 14

コントロールの位置 …… 9

さ

サイドスタンド …… 15

サスペンションスプリングプリロードを調整する …… 44

サドルを取り外す …… 38

し

車両識別番号（V.I.N.） …… 8

重要なお知らせ …… 3

潤滑油、用品一覧 …… 13

乗車前の確認…… 24

す

ステアリングロック…… 21

スパークプラグを確認する …… 36

スロットルコントロール …… 20

スロットルコントロールケーブルを調整する …… 35

せ

洗車…… 67

そ

備付…… 65

た

タイヤ …… 50

ち
チェーンの潤滑を行う …… 47
チェーン／フロントスプロケット／リアスプロケットの摩耗を確認する 46
チェーンを調整する …… 44
長期間使用しない場合 …… 66
て
ディスクを清掃する …… 53
テールライト …… 63
テクニカルデータ …… 10
デジタル計器、警告灯類 …… 16
電気部品の位置 …… 54
と
トラブルシューティング …… 25
な
ならし運転に関する注意事項 …… 24
ナンバープレートライトの電球を交換する …… 63
ね
燃料 …… 14
燃料タップ …… 14
の
納車前点検 …… 68
は
配線図中主要構成部品 …… 57
バックミラーを調整する …… 28
バッテリー …… 60
バッテリー充電器 …… 60
パッドの磨耗 …… 52
パッドを清掃する …… 52
パッドを取り付ける …… 52
ひ
左側ハンドルバースイッチ …… 21
表示データ …… 8
ふ
フォークからエアを抜く …… 43
複合ブレーキコントロール …… 22
複合ブレーキの遊びを調整する …… 41
複合ブレーキペダルの位置を調整する …… 40
部品交換 …… 4
ブレーキ …… 50
ブレーキディスクの磨耗 …… 52
ブレーキパッドを取り外す …… 51
付録 …… 66
フロントブレーキ液のレベルを確認する …… 41
フロントブレーキコントロール …… 20
フロントホイールを組み付ける …… 48
フロントホイールを外す …… 48
へ
ヘッドライトを調整する …… 64
ヘッドランプの電球を交換する …… 61
ほ
ボルテージレギュレーター …… 40

み
右側パネルを取り外す …… 38
右側ハンドルバースイッチ …… 21
も
モーターサイクルとエンジンを止める …… 30
モーターサイクルを緊急停止する …… 30
モーター識別番号 …… 8
り
リアブレーキ液のレベルを確認する …… 42
リアホイールを外す …… 49
れ
冷却液レベルを確認する …… 34

ANNEXE A

付録A

定期点検表

RS 125 R SM 125 R	メンテナンス表（SWM 販売店におまかせください）						
	クーポン		クーポン	クーポン	クーポン	クーポン	
	1,000km	8h EN	5,000km	10,000km	15,000km	20,000km	必要に応じて交換
バルブ	C（除去）（●）			C（除去）（●）		C	X
バルブスプリング						C	X
バルブカップ、バルブハーフコーン						C	X
ロッカーアーム（吸排気）						C	X
カムシャフト						C	
バルブタイミングチェーン					C	S	
バルブタイミングチェーンスライダー						S	
バルブタイミングチェーンテンショナー						C	
吸気マニホルド			C		C		X
シリンダーアッシー						C	X
ピストンアッシー					C	S	

RS 125 R SM 125 R	メンテナンス表（SWM 販売店におまかせください）						
	クーポン		クーポン	クーポン	クーポン	クーポン	
	1,000km	8h EN	5,000km	10,000km	15,000km	20,000km	必要に応じて交換
エンジンオイル	S		S	S	S	S	
オイルポンプ					C		
オイルフィルターカートリッジ	S		S	S	S	S	
クラッチハブ				C			X
クラッチディスク				C	S		X
クラッチスプリング					C		X
クラッチディスクハウジング					C		X
ドライブスプロケット			C		C		X
スパークプラグ			P	S		S	
エアフィルター			S	S	S	S	
冷却液	C		C	C	C	S	X
フットレスト、フットレストのピンとスプリング			C				X
サドルフレーム締め付けスクリュー、 エンジン締め付けスクリュー	C			C			

RS 125 R SM 125 R	メンテナンス表（SWM 販売店におまかせください）						
	クーポン		クーポン	クーポン	クーポン	クーポン	
	1,000km	8h EN	5,000km	10,000km	15,000km	20,000km	必要に応じて交換
サイドスタンド	C		C	C	C	C	
チェーンガイドローラー、ベアリング			C	C	C	C	X
ステアリングヘッド、ピン付ステアリングクラウン			L		L		
フロントフォーク				R			
ハンドルバーホルダーと留め具のセット	C		C	C	C	C	
リアステアリングアームブッシュ			L	L	L	L	
リアチェーンスライダー			C	S	C	S	X
リアサスペンションリンクブッシュ			L	L	L	L	
リアチェーンガード			C	S	C	S	X
リアスイングアームピボットニードルベアリング			L	L	L	L	

RS 125 R SM 125 R	メンテナンス表（SWM 販売店におまかせください）						
	クーポン		クーポン	クーポン	クーポン	クーポン	
	1,000km	8h EN	5,000km	10,000km	15,000km	20,000km	必要に応じて交換
リアサスペンション						R	
リアサスペンションリンクニードルベアリングとガジョンピン			L	L	L	L	
スロットルコントロールアッシー			C	C	C	C	
クラッチコントロールアッシー				C		C	
フロントブレーキディスク			C	C	C	C	X
フロントブレーキシステム液			C			S	
リアブレーキディスク			C	C	C	C	X
リアブレーキシステム液			C			S	
ブレーキパッド		C	C	C	C	C	X
燃料ホース			C	C	C	S	X

RS 125 R SM 125 R	メンテナンス表（SWM 販売店におまかせください）						
	クーポン		クーポン	クーポン	クーポン	クーポン	
	1,000km	8h EN	5,000km	10,000km	15,000km	20,000km	必要に応じて交換
ホイールスポークのテンション	C		C	C	C	C	
ホイールハブベアリング					S		X
リアドライブスプロケット				S		S	X
リアドライブスプロケットスクリューの締め付け	C		C	C	C	C	
リアトランスミッションチェーン	C、L		C、L	S	C、L	S	X
スクリュー、ナットの締め付けの一般的なチェック	C		C	C	C	C	

記号の説明

h ： 時間
S ： 交換
C ： 確認
P ： 清掃
R ： 分解点検
L ： 潤滑を行う
EN ： 長距離耐久レース
＃ ： ワークショップマニュアルを参照してください。

おしらせ

分解するときはシールを交換します。
スクリューやナットが劣化したら交換します。
レース、泥地または砂地での使用後は一般的な点検を行います。

メ　モ

RS 125 R
SM 125 R

クイックマニュアル

SWM モーターサイクル社より

SWMをお選びいただきありがとうございます。モーターサイクルの最高の性能を継続的かつ安全に保証するため、モーターサイクルの定期点検・整備を正規SWM販売店で実施しなければなりません。
みなさまが長期にわたって安全にモーターサイクルを楽しめるよう、弊社の経験豊かなテクニシャンが最高品質のモーターサイクルを造り出すための作業を行ってきました。
しかし、みなさまのご協力が不可欠です。「オーナーズマニュアル」を注意してお読みいただき、定期保守、突発的な修理、およびすべての整備・点検作業は正規SWM販売ネットワークのスペシャリストにおまかせくださるようお願いいたします。

定期メンテナンスプログラム

SWMモーターサイクル社はモーターサイクルの最高レベルの性能と安全性を保証するために、定期メンテナンスプログラムおよび納車前点検作業を定めています。
ご自分のモーターサイクルに所定の定期メンテナンスは、「オーナーズマニュアル」に記載されています。モーターサイクルの安全性と信頼性を常に監視するために、所定の時期に点検・整備を行うことが絶対不可欠です。
モーターサイクルの不充分または不適切な点検・整備に起因する不具合の修理は保証対象外です。SWMモーターサイクル社はそのような故障や機械的不具合の結果、モーターサイクルの使用によりユーザーが被った怪我に対して一切責任を負いません。
初期整備を含むすべての所定点検・整備は部品、工賃ともに有償となります。ただし、メンテナンススケジュールに定める納車前点検はSWM販売店において無償で実施されます。保証対象整備および修理・設定・交換・その他を含むすべての整備作業は正規SWM販売店・整備工場において、SWMモーターサイクル社が定めた手法に基づいて実施しなければなりません。販売店が定期メンテナンスを実施後に発行する領収証（または領収証発行前であれば請求書）だけが整備実施の証明書とみなされます。

メンテナンス表

	定期メンテナンス実施時期				
RS125 R SM125 R	点検・整備	点検・整備	点検・整備	点検・整備	点検・整備
	1,000km 621.37マイル	5,000km 3106.85マイル	10,000km 6213.71マイル	15,000km 9320.56マイル	20,000km 12427.42マイル

オーナーズマニュアル

本「クイックマニュアル」にはモーターサイクルの適切な使用に関わる基本操作方法が記載されています。

保証および
整備の手引き

保証の内容

お客様のモーターサイクルはEU指令99/44に基づいて初期不良がないことが保証されています。
本保証では製造上の不良もしくは納車前に存在した不良があると思われるモーターサイクルまたは部品の無償交換または無償修理が含まれています。
当該モーターサイクルが推奨メンテナンスプログラムどおりに点検・整備されている、さらにすべてのサービスクーポン（所定点検整備記録）が適切に押印されている場合のみ本保証は有効です。
当該モーターサイクルをレースで使用した場合には本保証対象外となりますので、ご注意ください。レースでの使用は本モーターサイクルの開発において前提としている使用方法と異なり、これに対応できるように設計されていないからです。
また、本モーターサイクルに関することは常に担当SWM販売店に問い合わせすべきであり、本保証は当該SWM販売店が直接対応することが法で義務付けられています。
担当SWM販売店が必要な整備を妥当な期間内で行うことができない、または別のSWM販売店の利用のほうが便利である場合には、お気軽に任意のSWM販売店にお気軽にご連絡ください。

保証の発効

モーターサイクルは、SWM販売店からお客様に納車したとき、または、お客様名義で登録したときから、初期不良に対する保証が有効になります。
SWMの納車時には販売店担当者と共に、本マニュアルに含まれている「納車証明書」に署名をお願いいたします。

保証修理が必要になった場合

万一、保障期間中に製造上の不具合や初期不良に起因する修理・交換が必要となった場合は、まずモーターサイクルをご購入になった販売店に連絡し、不具合内容を説明し、モーターサイクルを点検してもらってください。
その際、販売店で納車日を確認できるよう、本手引きをご持参ください。
初期不良または製造上の不良により修理を要する場合には、担当販売店ができる限り早急に修理もしくは部品交換を無償で行います。

保証の条件

保障の対象外

以下については保証対象外

- SWMによって規定されたメンテナンススケジュールに従わなかったことによる劣化。
- 非純正のスペアパーツを使用して修復された車両
- メンテナンススケジュールの対象となっていないか、サービスクーポンが正式に捺印されていない車両
- 競技／レンタル／オフロードなど酷使された車両

劣化しやすい消耗品とパーツ

以下の部品の摩耗、および通常劣化は保障対象外です。

- スパークプラグ
- ドライブチェーン
- ブレーキのパッドとディスク
- クラッチのディスクと本体
- タイヤ
- 電球とヒューズ
- トランスミッションと配線ケーブル
- チューブおよび
  その他すべてのゴム製部品
- ベアリング
- エアフィルターと燃料フィルター
- 二次ドライブチェーンおよびギヤ

潤滑剤

オイル、グリース、バッテリーの酸、冷却液などの液剤は保証対象外です。

制限

全車両：バッテリー、サドル、およびプラスチック部品の保証は6ヶ月間です。

- メンテナンスおよび作業工賃、修理等に必要な部品代は保証に含まれません。
- 保証修理の請求から発生する経費（追加の連絡費用、宿泊費用、および時間のロスに対する補償、商業的損害、代車レンタカー費用などその他の関連費用）は保証対象外です。

保証の有効性に関する重要なおしらせ

- 本保証の手引きは大切に保管し、モーターサイクルを正規SWM販売店に持ち込む際には必ず提示してください。
- サービスクーポン（所定点検整備記録）はモーターサイクルの整備を行った販売店が記入しなければなりません。
- 本保証書は有効期限が切れるまでは後続のオーナーに譲渡できます。
- 所有者が変更になる場合は、本保証の手引きに含まれている専用フォームを使用して変更申請してください。
- 製造者はすべてのモデルについて、すでに出回っているモーターサイクルに対する当該修正を行う義務を負うことなく、変更改善を行う権利を有します。

メ　モ

納車証明書

納車年月日:

フレーム番号:

型　　式:

エンジン番号:

本モーターサイクルはSWM MOTORCYCLES S.R.L.社が定めるすべての確認および納車前点検をうけ、購入者の要請によるすべてのオプション部品が取り付けられ、納車準備完了状態になりました。
購入者は本「保証の手引き」と「オーナーズマニュアル」を渡され、本モーターサイクルに搭載されている主要な駆動システム部品類についての説明をうけました。

販売店押印・署名欄

SWM MOTORCYCLES S.R.L.社および正規販売会社は法令675/1996および改正法に準じて、販売後整備サービスの実施義務を遂行する目的において購入者の同意なくその個人情報を使用することをここに宣言します。

お客様

姓：

名：

郵便番号：

住所：

電話番号：

私は本日、私の期待を満たした前述のモーターサイクルの納品を受けたことを宣言します。さらに「保証の手引き」と「オーナーズマニュアル」も受領したことを宣言します。私はここにSWM MOTORCYCLES S.R.L.社が法令675／1996および改正法に準じて、販売後整備サービスの提供の目的で私の個人情報を取り扱うことを許可します。

お客様の署名：

SWM MOTORCYCLES S.R.L.社用コピー

メ　モ

所有権譲渡の通知書

譲渡年月日：　　走行距離：

フレーム番号：

型　　式：

エンジン番号：

お客様の署名：

姓：

名：

郵便番号：

住所：

電話番号：

封をして下記にご郵送ください

日本輸入元：株式会社MV AGUSTA JAPAN

〒437-1114 静岡県袋井市西同笠387

SWM MOTORCYCLES S.R.L.社および正規販売会社は法令675/1996および改正法に準じて、販売後整備サービスの実施義務を遂行する目的において購入者の同意なくその個人情報を使用することをここに宣言します。

お客様

私は本日　　様に車両の所有権を譲渡したことをSWM MOTORCYCLES S.R.L.社に通知いたします。

姓：

名：

郵便番号：

住所：

電話番号：

また、新所有者には車両と本「保証の手引き」および「オーナーズマニュアル」を渡しました。

SWM MOTORCYCLES S.R.L.社用コピー

メ　モ

整備・点検記載欄：定期メンテナンスの整備が実施された事を証明します。

点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	
点検・整備		実施日		走行距離		お客様の署名		販売店印	

保証内サービスが実施されたことを証明する領収証をホッチキス等で添付してください。

日本輸入元
株式会社 MV AGUSTA JAPAN
〒437-1114 静岡県袋井市西同笠387
URL：https：//www.swm-motorcycles.jp/